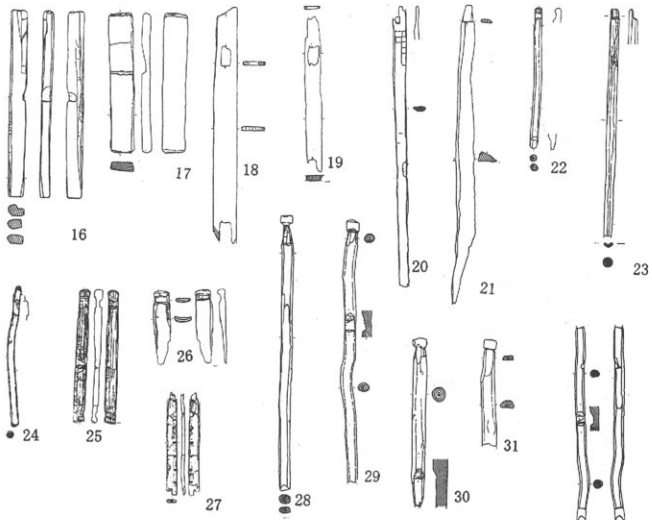
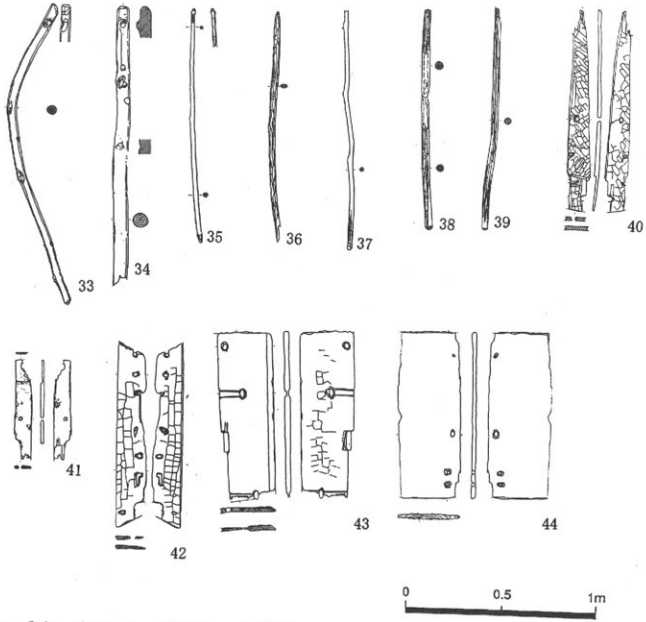
遺跡名：南方(済生会)遺跡　所在地：岡山県岡山市　弥生時代中期
文献：『南方(済生会)遺跡－木器編』　2005　岡山市教育委員会



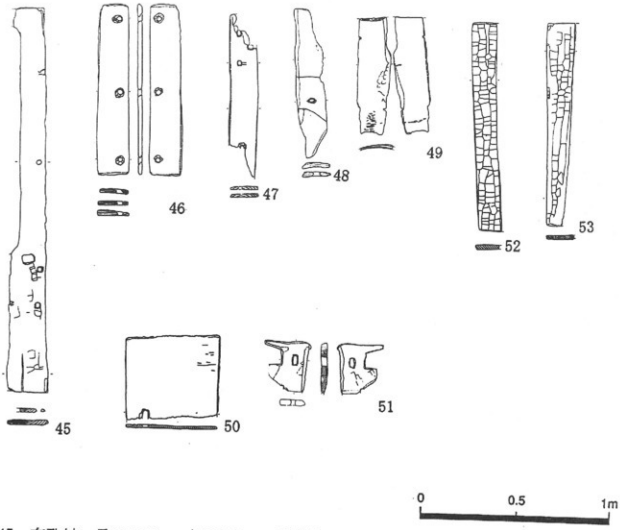
16　抉りのある材、長 99.9cm、幅 9cm、広葉樹
17　抉りのある材、長 75.1cm、幅 12.9cm
18　ほぞ孔のある材、長 125.3cm、幅 11.8cm
19　ほぞ孔のある材、長 83.2cm、幅 8.6cm、広葉樹
20　ほぞ孔のある材、長 150.9cm、幅 7.0cm、針葉樹
21　ほぞのある材、長 160.2cm、幅 9.8cm、
22　相欠のある材、長 76.3cm、径 4.2cm
23　相欠のある材、長 121.1cm、径 5.1cm
24　斜めの欠込のある材、長 75.4cm、径 3.8cm
25　欠込のある材、長 71.3cm、幅 5.8cm
26　欠込のある材、長 39.4cm、幅 9 cm
27　非貫通孔のある材、長 55cm、幅 5.7cm
28　垂木、長 143.1cm、径 6.1cm、広葉樹
29　抉りのある垂木、長 141.7cm、径 6.6cm、広葉樹
30　抉りのある垂木、長 90.2cm、径 7.6cm、広葉樹
31　垂木、長 57.2cm、径 7.7cm、広葉樹
32　抉りのある材、長 141.7cm、径 5cm、広葉樹

遺跡名：南方(済生会)遺跡　所在地：岡山県岡山市　弥生時代中期
文献：『南方(済生会)遺跡－木器編』　2005　岡山市教育委員会



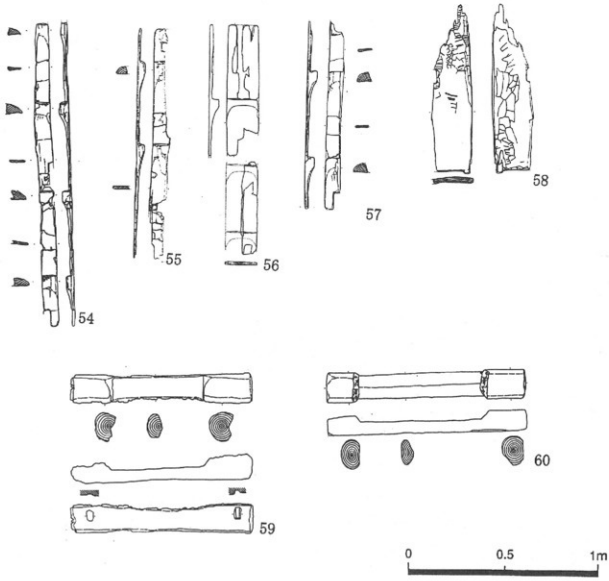
33　垂木、長 161.4cm、径 5.3cm、広葉樹
34　抉りのある材、長 85.4cm、径 7.3cm、針葉樹
35　垂木、長 125.1cm、径 2.7cm
36　垂木？、長 108.8cm、径 4.0cm、針葉樹
37　垂木？、長 127.4cm、径 2.8cm、針葉樹
38　垂木？、長 117.7cm、径 4.2cm、針葉樹
39　垂木？、長 118.8cm、径 3.8cm、広葉樹
40　斜め切り・斜め相欠のある有孔材、長 107.5cm、幅 12.1cm、広葉樹
41　相欠のある有孔板、長 53.1cm、幅 9cm
42　斜め切りのある有孔板、長 98.2cm、幅 15.6cm、針葉樹
43　溝のある有孔板、長 88.8cm、幅 28.5cm、針葉樹
44　有孔板、長 88.9cm、幅 28.0cm、針葉樹

遺跡名：南方(済生会)遺跡　所在地：岡山県岡山市　弥生時代中期
文献：『南方(済生会)遺跡－木器編』　2005　岡山市教育委員会

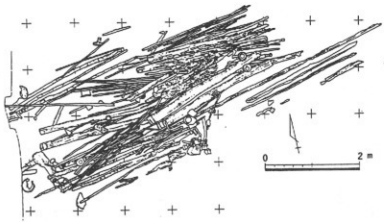


45　有孔材、長 205.3cm、幅 21.9cm、広葉樹
46　有孔板、長 91.1cm、幅 17.0cm
47　有孔板、長 86.0cm、幅 14.8cm、針葉樹
48　有孔板、長 79.4cm、幅 15.1cm、広葉樹
49　有孔板、長 62.3cm、幅 17.3cm、広葉樹
50　有孔板、長 44.0cm、幅 43.0cm、針葉樹
51　有孔板、長 25cm、幅 27cm

遺跡名：南方(済生会)遺跡　所在地：岡山県岡山市　弥生時代中期
文献：『南方(済生会)遺跡－木器編』　2005　岡山市教育委員会



52　板、長 111.0cm、幅 13.2cm
53　板、長 108.0cm、幅 15.3cm、針葉樹
54　はしご、長 163.3cm、幅 9.2cm
55　はしご、長 122.4cm、幅 9.2cm
56　はしご、長 122.2cm、幅 16.5cm
57　はしご、長 99.9cm、幅 8.2cm
58　扉板、長 90.1cm、幅 21.6cm、広葉樹
59　建築材？、長 95.8cm、幅 15.7cm
60　建築材？、長 104.8cm、幅 16.0cm、広葉樹



第3図　木材集積遺構

表1
埋没河道出土木質遺物の樹種
(木材集積除く)

樹種	丸木	丸木分割材	板	角材	丸材	不定形	総計
イチイ	5		1	1	1		8
カヤ	2		4	5	6	5	22
マキ属					2		2
イヌガヤ	1						1
モミ属	3			29	9	2	43
ツガ属			1	2			3
マツ属不明	3						3
ニヨウマツ類	9			1			10
スギ				8	1		9
コウヤマキ				1			1
ヒノキ属	3		1	13	8	4	4	33
アスナロ属			1		1		1	3
ヒノキ科	1				2	5		8
針葉樹材	14			3	1		1	19
ヤナギ属	1							1
アカガシ亜属	42		29	5	5	1	4	86
コナラ亜属コナラ節	18		7	1	3	1	7	37
コナラ亜属クヌギ節	7		4	1	3		2	17
クリ	2		2		5	2	1	12
シイノキ属	9		2	7	5	1		24
ニレ属			1		1			2
ケヤキ	1		2	3	4		4	14
エノキ属	1			1	1	1		4
ムクノキ	1		1		1			3
ヤマグワ	1			1	1	1		4
イチジク属	1							1
クスノキ	1			5			3	9
クスノキ科	6		3	4	4		2	19
サクラ属	3							3
モモ	2							2
ユズリハ属	3							3
ゴンズイ属	1							1
ツバキ属	14		2		1			17
サカキ属	8		2		1	1	1	13
ヒサカキ属	4							4
散孔材	1		2		1			4
広葉樹材	2							2
不明	5				2			7
総計	175		65	91	69	19	35	454

表2　木材集積出土遺物の樹種

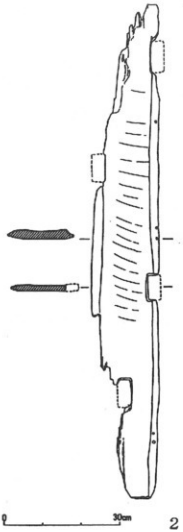
樹種	丸木	丸木分割材	板材	不定形	総計
イチイ				1	1
イヌガヤ				1	1
モミ属			3		3
スギ			1		1
ヒノキ属			5	1	6
針葉樹材				1	1
ヤナギ属	2			2	4
アカガシ亜属	7		2	2	11
コナラ亜属コナラ節	1			1	2
コナラ亜属クヌギ節	1				1
シイノキ属	64	4	1	4	73
ケヤキ				1	1
エノキ属	1			2	3
ムクノキ				1	1
クスノキ科	12			4	16
サクラ属	2				2
ツバキ属	1				1
サカキ属				2	2
環孔材	3		2		5
散孔材	2		1	1	4
広葉樹材	5			1	7
不明	9	1	4	3	17
総計	111	5	19	28	163

藤井裕之ほか　2003　「岡山市南方(済生会)遺跡出土木質遺物の樹種同定」
『日本文化財科学会第20回大会研究発表要旨集』　日本文化財科学会

遺跡名：金井迫田西遺跡　　所在地：岡山県津山市　弥生後期末～古墳初頭

文献：『金井迫田西遺跡』　1991　津山市教育委員会

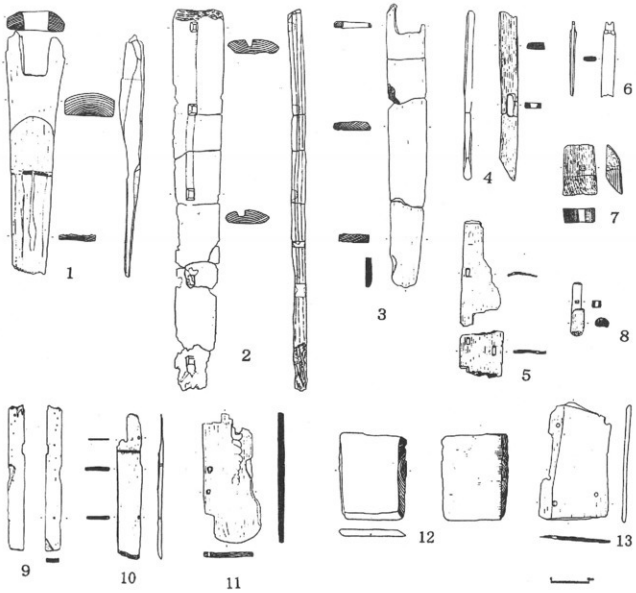
1



2

1　有孔板　長 67cm、幅 19cm、スギ
2　有孔板　長 131cm、幅 17.5cm、マツ

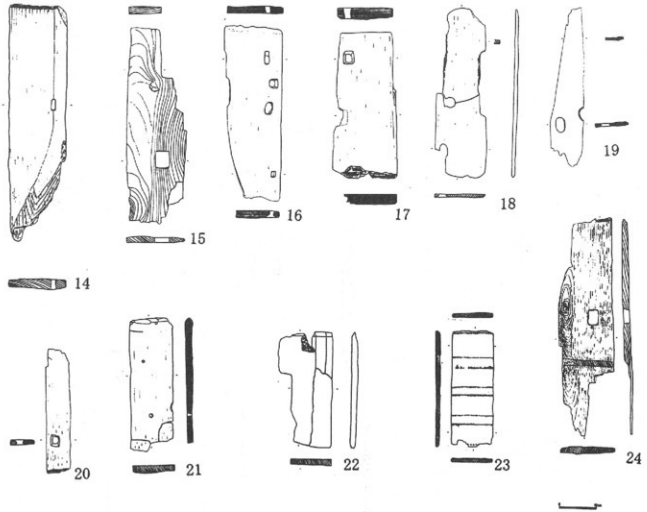
遺跡名：上東遺跡　所在地：岡山県倉敷市　弥生時代後期
文献：『下庄遺跡　上東遺跡』　2001　岡山県教育委員会



1　輪薙込のある材、長 64.6cm、幅 13.0cm、コウヤマキ
2　非貫通孔のある材、長 100cm、幅 13.3cm、ブナ科
3　輪薙込のある材、長 75.6cm、幅 9.9cm、シイ属
4　ほぞ孔のある材、長 45cm、幅 4.8cm、シイ属
5　貫通孔のある板、長 38cm、幅 11.2cm、アカガシ亜属
6　ほぞのある材、長 20.3cm、幅 3.3cm、
7　貫通孔のある材、長 13.6cm、幅 4 cm、ヒノキ
8　ほぞ孔のある材、長 13.6cm、幅 8 cm、アカガシ亜属
9　非貫通孔のある材、長 39cm、幅 4.1cm、ヒノキ
10　貫通孔のある板、長 39.0cm、幅 6.3cm、スギ
11　貫通孔のある板、長 34.5cm、幅 14.5cm、
12　板、長 17.6cm、幅 23.7cm、ツガ
13　貫通孔のある板、長 31.3cm、幅 18.2cm、ヒノキ

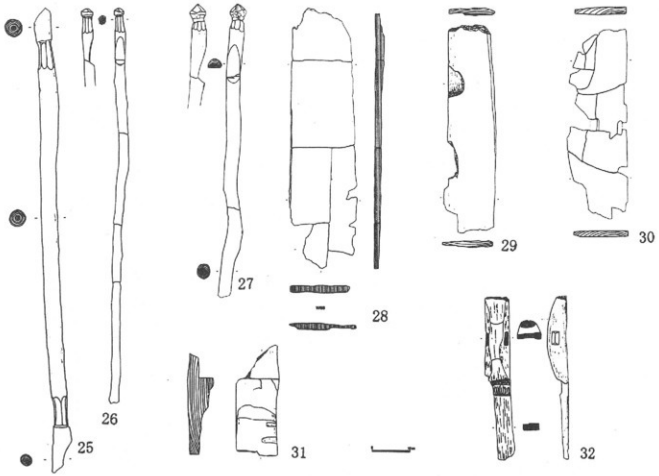
遺跡名：上東遺跡　所在地：岡山県倉敷市　弥生時代後期

文献：『下庄遺跡　上東遺跡』　2001　岡山県教育委員会



14　貫通孔のある板、長 63.5cm、幅 15cm、モミ属
15　貫通孔のある板、長 52.3cm、幅 15.2cm、アカマツ
16　貫通孔のある板、長 46cm、幅 14.9cm、ヒノキ
17　貫通孔のある板、長 39.0cm、幅 16.9cm、広葉樹
18　貫通孔のある板、長 45cm、幅 13.1cm、シイ属
19　貫通孔のある板、長 42.3cm、幅 8.8cm、
20　貫通孔のある材、長 32.5cm、幅 6.3cm、ヒノキ
21　貫通孔のある板、長 35.5cm、幅 11.4cm、シイ属
22　板、長 33cm、幅 14.2cm、シイ属
23　貫通孔・圧痕のある板、長 30.4cm、幅 10.5cm、ヒノキ
24　貫通孔・段のある板、長 57.6cm、14.3cm、ヒノキ科

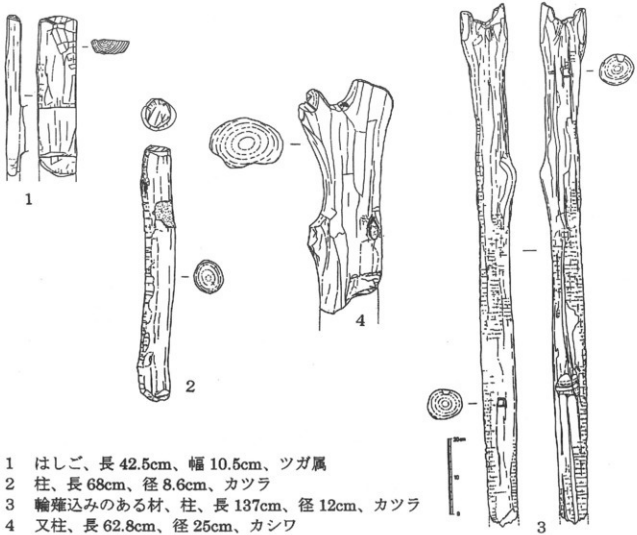
遺跡名：上東遺跡　所在地：岡山県倉敷市　弥生時代後期
文献：『下庄遺跡　上東遺跡』　2001　岡山県教育委員会



25　垂木、長 122.6cm、径 4.8cm、マキ属
26　垂木、長 104.3cm、径 3.5cm、ヤブツバキ
27　垂木、長 72.7cm、径 4.1cm、サカキ
28　板、長 69.3cm、幅 16.5cm、アカガシ亜属
29　板、長 55cm、幅 13.2cm、アカガシ亜属
30　貫通孔のある板、長 50cm、幅 16cm、ケヤキ
31　はしご、長 28cm、幅 11cm、
32　扉板、長 43.6cm、幅 4.3cm、モミ属

遺跡名：窪木遺跡　　所在地：岡山県総社市　　弥生時代後期

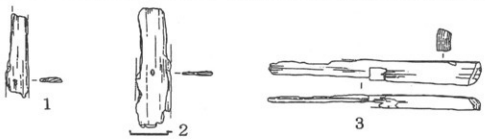
文献：『窪木遺跡1』　1997　岡山県教育委員会



1　はしご、長 42.5cm、幅 10.5cm、ツガ属
2　柱、長 68cm、径 8.6cm、カツラ
3　輪痕込みのある材、柱、長 137cm、径 12cm、カツラ
4　又柱、長 62.8cm、径 25cm、カシワ

遺跡名：窪木遺跡　　所在地：岡山県総社市　　弥生中期～後期

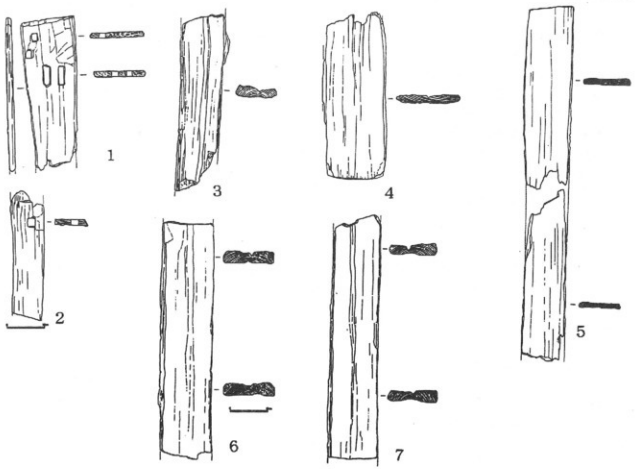
文献：『窪木遺跡1』　1997　岡山県教育委員会



1　有孔板、長 21.8cm、幅 6cm、ゴシイ
2　有孔板、長 31.8cm、幅 9 cm、ゴシイ
3　ほぞ孔のある材、長 55.6cm、幅 5.6cm、ネズミサシ

遺跡名：窪木遺跡　　所在地：岡山県総社市　　古墳時代初頭

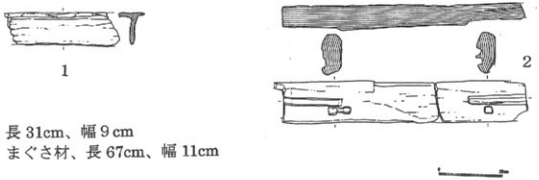
文献：『窪木遺跡1』　1997　岡山県教育委員会



1　有孔板、41.2cm、幅14.4cm、スギ
2　有孔板、長34.3cm、幅8.4cm、アカマツ
3　板、長47.6cm、幅12.9cm、クリ
4　板、長44.7cm、幅16.8cm、クロマツ
5　板、長95cm、幅12.6cm、スギ
6　板、長63.2cm、幅13.9cm、クリ
7　板、長65.3cm、幅13.3cm、クリ

遺跡名：窪木遺跡　　所在地：岡山県総社市　　弥生中期～後期

文献：『窪木遺跡2』　1998　岡山県教育委員会



1　長31cm、幅9cm
2　まぐさ材、長67cm、幅11cm

山口県の概要

藤本有紀・佐藤浩司

1.宮ヶ久保遺跡（阿武郡阿東町）

本県でもっとも多くの建築材が出土した遺跡で、阿東町の微高地に営まれ、集落を囲繞する環濠が検出された。木製品はその中で滞水状態にあったと思われ、木器総数は500点以上を数える。種類も豊富で動物形・武器形（戈形、剣形、戟形?、鏃形）・鐸形の各種祭祀具、容器類を中心とする食膳具、弓・柄・短甲などの武具、経巻具・布巻具・腰当て具・綿打具・紡錘車などの紡織具、直柄・膝柄・かけやなどの工具、着柄状態の平鍬・鋤・着柄式の鋤・掘り棒などの農具とともに、梯子・桁か梁の柱材・木樋、くさびを通して固定する各種工作物などのいわゆる建築材がみつかっている。

これらは共伴した弥生土器から、中期中葉～中期後半に比定できる。

さて、出土建築材の特徴としては、材をつなぎ合せるための栓状木製品がめだつ。これには方形のほぞ穴が穿たれ、頭部とほぞ穴までの間隔は様々で組み合う材が多種であったことがわかる。なお、樹種の分析はなされていないようである。

*村岡和雄『宮ヶ久保遺跡』阿東町教育委員会 1998

*村岡和雄「弥生時代の木製品」『山口県史資料集　考古1』山口県 2000

2.川棚条里跡（豊浦郡豊浦町）

1次調査と4次調査で建築部材が出土している。

全長約 30mの自然流路がみつかり、土層は長期間かかって埋没した堆積状況を示していた。流路の上手側は丘陵先端付近の低湿地にあたり、共伴する弥生土器から木製品は弥生前期末に比定できる。下手側は谷状になった自然流路が走っており古墳初頭～6世紀代までの幅をもつ。

弥生前期末の建築部材としては栓が4点出土し、そのうち3点に貫通穴が1カ所ずつ設けられている。樹種はヒノキ亜科で、他の1点はイヌマキである。

古墳時代の建築部材は扉板1点、水平構造材2点、壁板材1点、用途不明材が1点ある。水平構造材には貫通穴と非貫通穴が組み合わされた仕口が使用されている。この材1点の樹種は二葉松類で用途不明材はスダジイである。

なお、報告書が未刊のため、実測図が提示できないことをご了承願いたい。

*藤本有紀他『川棚条里跡1』豊浦町教育委員会 2000

仕口総括表

時代	遺跡	貫通穴	非貫通穴	欠込	L字欠込	又状欠込	相欠	通しほぞ	斜め加工	捨れ
弥生前期末	川棚条里遺跡	○	×	×	×	×	×	×	×	×
弥生中期中葉～後半	宮ヶ久保遺跡	◎	○	○	×	○	○	×	○	○
古墳初頭～後期	川棚条里遺跡	◎	×	×	×	×	×	×	×	×

宮ヶ久保遺跡出土建築部材一覧表

図面番号	部種	遺構	法量	形態	技法	仕口	時期	備考
図125-4	垂木？	A溝	全長71cm、幅3.8cm、厚さ2.5cm	ほぼ完形品。角材の先端を斜めに削り込む。上部は若干細く削り込み、上端部は立方体に削り出す。		括れ1	弥生時代中期中葉～後半	端部尖る
図135-12	垂木？	A溝	全長（14.4cm）、径3.9cm×4.3cm	建材。上部欠損。体部著しく腐蝕。下端部は斜めに削り込んで鋭い円錐形。	先端部に鋭い削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図137-1	栓	A溝	全長30.5cm、頭部幅（8.7cm）、頭部厚5.4cm、体部幅4.6cm、体部厚4.2cm	建材。頭部片側欠損。頭部は横長の直方体、上端から12cm程のところを水平に削り込んで体部をつくり出す。体部は真直ぐ伸び、下端部は部分的に削り込んでいるが尖ってはいない。	部分的に粗い削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図137-2	栓	A溝	全長27.9cm、頭部幅8.2cm、頭部厚6.1cm、体部幅4.1cm、体部厚4.2cm	建材。ほぼ完形品。頭部断面不整だ円形、皮を残す。上端から4.5cmのところで4面から削り込んで体部をつり出す。体部中央に縦長の隅丸長方形の穿孔。下端部は平坦に削り落とす。	頭部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図137-3	栓	A溝	全長33.7cm、頭部幅13.6cm、頭部厚5cm、体部幅4.3cm、体部厚2.7cm	建材。側辺部分的に欠損。頭部上端は両側辺から斜めに削って山形、上端から8.5cmのところを水平に削り込んで体部を作り出す。体部した端は両側辺から斜めに削りこんで尖る。体部中央に長方形に穿孔。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図137-4	栓	A溝	全長31.7cm、頭部幅11cm、頭部厚5.4cm、体部幅3.6cm、体部厚3.1cm	建材。ほぼ完形品。頭部平面長方形、断面隅丸長方形。端部から7cmのところを水平に削り込んで体部をつくり出す。体部下端は平坦に削り落とす。体部中央よりやや下方に長方形の穿孔	頭部に大きな削り	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図137-5	栓	A溝	全長52.7cm、頭部幅8.9cm、頭部厚3.8cm、体部幅4.9cm、体部厚3.7cm	建材。ほぼ完形品。頭部は縦長直方体、上端から1.1cmのところを斜めに削り込んで体部をつくり出す。体部下端は削り込んでいるのが尖っていない。体部中央よりやや上方にだ円形の穿孔。	体部に部分的に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図137-6	栓	A溝	全長20cm、頭部幅（6.2cm）、頭部厚3.2cm、体部幅3.5cm、体部厚2.9cm	建材。頭部片側欠損。頭部平面円形と思われる。上端から5cmのところを水平に削り込んで体部を作り出す。体部下端は平坦に削り落とす。体部はほぼ中央に長方形の穿孔。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図137-7	栓	A溝	全長（12.4cm）、頭部幅9.3cm、頭部厚5cm、体部幅2.9cm、体部厚2.4cm	建材。体下部欠損。全体に腐蝕著しい。頭部平面は半円形、上端から6cmのところを削り込んで体部をつくり出す。			弥生時代中期中葉～後半	
図137-8	栓	A溝	全長（14.7cm）、頭部幅8.3cm、頭部厚2.6cm、体部幅3.3cm、体部厚2cm	建材。体下部欠損。全体に腐蝕著しい。頭部平面は半円形、上端から5cmのところを斜めに削り上げて逆刺のような形。体部に長方形の穿孔。	両端部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図138−1	梯子	A溝	全長（78.6cm）、幅14.6cm、厚さ2.8cm	梯子。端部欠損。平坦な板材の片面に2段の段を削り出し、段間距離は22cm程。厚さは下部で若干厚くなる。	階段部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	端部欠損
図138-2	壁板材	A溝	全長（19.4cm）、幅（7.7cm）、厚さ1.1cm	板材。下部及び両側辺欠損。扁平、上端は平坦に切り、上部3ヶ所1列に円形の穿孔。上端から11cmのところに1ヶ所円形の穿孔。			弥生時代中期中葉～後半	穿孔3
図138-3	壁板材？	A溝	全長（27.2cm）、幅4.9cm、厚さ1cm	上部欠損。扁平。両側辺ほぼ平行。下部は斜めに削り、下端は平坦。下部中央に穿孔。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図139-1	壁板材	A溝	全長53cm、幅22.8cm、厚さ3.4cm	板材。完形品。扁平、平面長方形。上部中央に長方形の穿孔。片面穿孔部はさらに大きく削りこんで段をなす。	穿孔部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図139-2	壁板材	A溝	全長53.8cm、幅28.4cm、厚さ2.6cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。上端部は平坦に切り、下端部は片面側から斜めに削り落とす。上部中央に穿孔。腐蝕のため孔の原形は不明。	端部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図139-3	壁板材	A溝	全長58.4cm、幅30.6cm、厚さ2.6cm	板材。端部を部分的に欠損するがほぼ完形品。扁平。平面長方形、片面部分的に腐蝕。			弥生時代中期中葉～後半	
図139-4	壁板材	A溝	全長59.7cm、幅39.2cm、厚さ2.4cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。下端部は片面から斜めに削り取る。下部右寄りに穿孔。	端部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図139-5	壁板材	A溝	全長62.2cm、幅28.2cm、厚さ3.2cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。上端部は片側から斜めに削り取る。上部右辺寄りに方形の穿孔。	端部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図139-6	壁板材	A溝	全長59.6cm、幅39.4cm、厚さ1.8cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面不整長方形。両端部は片面から斜めに削り取る。	端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図140-1	壁板材	A溝	全長78.3cm、幅13.2cm、厚さ1.6cm	板材。両端部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。上部中央に方形の穿孔。	穿孔部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図140-2	壁板材	A溝	全長（111.2cm）、幅13.8cm、厚さ2.2cm	板材。下端部焼失。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。中央に穿孔。腐蝕により孔の原形不明。	端部に削り	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	部分的に焼痕。
図140-3	扉板	A溝	全長97.7cm、幅27.6cm、厚さ3cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。上端部は片面から斜めに削り取り、下端部には軸部を削り出す。2ヶ所に方形穿孔。	端部及び穿孔部に削り。	貫通穴2	弥生時代中期中葉～後半	一端に軸
図140-4	壁板材	A溝	全長（116.1cm）、幅25cm、厚さ3.6cm	板材。下端部欠損。全体に著しく腐蝕。扁平、上端は平坦に切り、両側辺はほぼ平行に伸びる。中央に穿孔、腐蝕により孔の原形不明。	上部に大きな削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	

図面番号	部種	遺構	法量	形態	技法	仕口	時期	備考
図141-1	壁板材	A溝	全長86cm、幅9.8cm、厚さ3.2cm	板材。ほぼ完形品。扁平、年輪に沿って湾曲、平面長方形。全体に著しく腐蝕。			弥生時代中期中葉～後半	
図141-2	壁板材	A溝	全長（84.6cm）、幅8.6cm、4.2cm	板材。下端部欠損。厚手、扁平、平面長方形。部分的に腐蝕。			弥生時代中期中葉～後半	
図141-3	壁板材	A溝	全長（84.6cm）、幅9.2cm、厚さ3.4cm	板材。下端部欠損。扁平。断面平行四辺形。上部片面に抉り。	抉り部に細かい削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図141-4	壁板材	A溝	全長72.8cm、幅10.6cm、厚さ2.4cm	板材。ほぼ完形品。厚手、扁平。平面長方形、上端部に抉り込み。	抉り部に刻み。	又状欠込1	弥生時代中期中葉～後半	
図141-5	壁板材	A溝	全長（67.2cm）、幅13.8cm、厚さ3.6cm	板材。下端部欠損。扁平、ほとんど整形していない。平面長方形。			弥生時代中期中葉～後半	
図141-6	壁板材	A溝	全長（81.8cm）、幅（9.8cm）、厚さ1.8cm	板材。両端部欠損。扁平、扁平。両側辺は平行に伸びる。下部に穿孔。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図141-7	壁板材	A溝	全長72.4cm、幅6.4cm、厚さ2.4cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。部分的に腐蝕。			弥生時代中期中葉～後半	
図141-8	壁板材	A溝	全長84.7cm、幅7.4cm、厚さ2.7cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。全体に大きな削り。	端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図141-9	壁板材	A溝	全長（78.5cm）、幅13.1cm、厚さ3.4cm	板材。上端部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。下端は片面から斜めに削り取る。上部の中央長方形の穿孔。	全面に大きな削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図142-1	斜行材	A溝	全長164.6cm、幅8.6cm、厚さ6.4cm	用途不明。完形品。断面三角形の自然木の下部を斜めに削り込み下端部は尖る。幅は中央で細くなり下部で再び太くなる。整形は粗雑			弥生時代中期中葉～後半	三角材
図142-2	横架材？	A溝	全長161.4cm、幅15.8cm、厚さ7.4cm	用途不明。下端部欠損。厚手の板材使用。幅は下部へ向かって細くなり、下端部は尖る。上部に不整長方形の穿孔。整形は粗雑。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図142-3	壁板材	A溝	全長（160.8cm）、幅24cm、厚さ2.8cm	板材。下端及び上端部分的に欠損。扁平、上端部平坦、両側辺ほぼ平行。上下2ヶ所に穿孔。	上端部に削り。	貫通穴2	弥生時代中期中葉～後半	
図142-4	壁板材？	A溝	全長（183.2cm）、幅8.4cm、厚さ3.4cm	用途不明。扁平、幅狭。両側辺は部分的に欠損するがほぼ平行に伸び下部で斜めに削り込む。			弥生時代中期中葉～後半	
図142-5	壁板材	A溝	全長（183.6cm）、幅15cm、厚さ3.2cm	板材。下端及び上端部分的に欠損。上端部は斜めに切り、両側辺はほぼ平行に伸びる。断面は扁平な平行四辺形。			弥生時代中期中葉～後半	
図143-1	壁板材	A溝	全長（57.8cm）、幅14.8cm、厚さ2cm	上部欠損。扁平。両側辺はほぼ平行。下部は斜めに削り下端は平坦。下端中央に長方形の抉り込み。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図143-2	壁板材	A溝	全長58.5cm、幅(14.1)cm、厚さ2cm	下端及び片側片欠損。扁平。両側辺はほぼ平行。下部は斜めに削り下端は平坦。下端中央に長方形の穿孔。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図143-6	三角材	A溝	全長（68.5cm）、幅5.4cm、厚さ5.8cm	上部欠損。断面三角形の下端を一面から斜めに削り込む。体部は整形していない。			弥生時代中期中葉～後半	
図143-10	壁板材	A溝	全長（57cm）、幅9cm、厚さ2.6cm	板材。上部焼失、下部欠損。扁平、幅は下部へ向かって細くなる。	部分的に削り。		弥生時代中期中葉～後半	上部焼痕
図143-11	壁板材？	A溝	全長（64cm）、幅8.4cm、厚さ2cm	上端部欠損。扁平。両側辺ほぼ平行、下部は斜めに削り下端は平坦。	両側辺に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図143-13	壁板材？	A溝	全長55.4cm、幅8.4cm、厚さ2.6cm	ほぼ完形品。扁平。両側辺ほぼ平行。下部は斜めに削り下端は平坦。角材の先端を斜めに削り込む。上部は若干細く削り込み、上端部は立方体に削り出す。			弥生時代中期中葉～後半	
図144-1	壁板材	A溝	全長（103.6cm）、幅10.6cm、厚さ2.2cm	板材。下端部焼失。扁平、下部へ向かって幅広。全体にほとんど整形せず粗いつくり。			弥生時代中期中葉～後半	下半部に焼痕
図144-3	不明建築材	A溝	全長103.4cm、幅6.2cm、厚さ1.8cm	板材。片側辺を部分的に欠損。扁平、両端部は平坦に切り取る。			弥生時代中期中葉～後半	
図144-4	横架材？	A溝	全長111.3cm、幅5cm、厚さ3.2cm	上部欠損。厚手の板材を細くまっすぐ削り、下端部は斜めに削りこんで尖る。	下部に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	角材
図144-5	横架材？	A溝	全長123cm、幅6.2cm、厚さ4.8cm	ほぼ完形品。角材、下部でやや太くなる。下端部は斜めに削りこんで尖る。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図144-6	横架材？	A溝	全長101.8cm、幅4.6cm、厚さ3cm	ほぼ完形品。角材、下端部は斜めに削りこんで尖る。	下部に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図144-7	横架材？	A溝	全長136.2cm、幅4.8cm、厚さ3.3cm	上部欠損。角材、ほぼまっすぐに伸びる。下端部は斜めに削りこんで鋭く尖る。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図144-8	横架材？	A溝	全長122.8cm、径3.4cm	上部焼失。断面不整円形、ほぼ均等にまっすぐに伸びる。下端部は斜めに削りこんで尖る。	全体に精巧な削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図145-1	壁板材	A溝	全長（78.8cm）、幅8.2cm、厚さ2.8cm	板材。下端部焼失。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。上部両側辺は斜めに削り込み、上端部は平坦に切り取る。			弥生時代中期中葉～後半	
図145-2	壁板材	A溝	全長98.1cm、幅13.8cm、厚さ2.3cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。			弥生時代中期中葉～後半	
図146-1	板状具	A溝	全長（51.3cm）、幅8.6cm、厚さ1.6cm	板材。上部欠損。両側辺はほぼ平行、片側辺は不整。下端部は丸みをもって片面から斜めに削り込む。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図146-2	板状具	A溝	全長（38.2cm）、幅9.3cm、厚さ3.2cm	板材。下部欠損。厚手、上端部部分的に欠損するが平坦にきる。両側辺はほぼ平行に伸び両辺ともに抉り込む。	上端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図146-3	板状具	A溝	全長（40.8cm）、幅11cm、厚さ5.4cm	板材。下部焼失。厚手、片側辺でやや薄くなる。両側辺はほぼ平行に伸び、上端は平坦に切り突起を削り出す。		相欠1	弥生時代中期中葉～後半	下部焼痕

図面番号	器種	遺構	法量	形態	技法	仕口	時期	備考
図146-5	壁板材？	A溝	全長39.3cm、幅12.2cm、厚さ2.2cm	板材。上端部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。下端は平坦で片面から斜めに削り取り、上端片辺から斜めに削り込む。上部方形の穿孔。	下端及び穿孔部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図146-6	板状具	A溝	全長47.3cm、幅8.8cm、厚さ1.6cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。両端部は平坦であるが、不整。			弥生時代中期中葉～後半	部分的に焼痕。
図146-9	板状具	A溝	全長37.4cm、幅8.2cm、厚さ0.8cm	板材。ほぼ完形品。薄手、扁平。平面長方形。	部分的に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図146-10	板状具	A溝	全長（37.1cm）、幅9.4cm、厚さ4.8cm	板材。上部欠損。厚手、両面い大きな節。両側辺はほぼ平行に伸びる。下端部は片面から斜めに削りほぼ平坦に切り取る。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図146-11	板状具	A溝	全長37cm、幅8.1cm、厚さ2.8cm	板材。ほぼ完形品。厚手、扁平。平面長方形。	両端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図148-2	横架材？	A溝	全長(83.3)cm、幅7.6cm、厚さ4.6cm	上部欠損。角材。下端部は斜めに削り込み尖る。断面三角形。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	体部に焼痕
図148-3	横架材？	A溝	全長(75.9)cm、幅3.2cm、厚さ2.6cm	上部欠損。扁平な板材。下部やや幅広。下端部は斜めに削り込み尖る。全体に著しく腐食。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図148-5	壁板材	A溝	全長96.9cm、幅6.3cm、厚さ3.3cm	板材。下部欠損。やや厚手、平面長方形。	全面に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図148-6	壁板材	A溝	全長86.6cm、幅4.3cm、厚さ1.8cm	板材。ほぼ完形品。扁平、幅狭。平面長方形、下端部は片面から斜めに削り取る。	両端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図148-7	壁板材	A溝	全長81.7cm、幅6.2cm、厚さ2.4cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。片側辺は不整。			弥生時代中期中葉～後半	
図148-8	壁板材	A溝	全長（67.5cm）、幅11.4cm、厚さ2.4cm	板材。下部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。上部は片面から斜めに削り平坦に切り取る。	上部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	片面全体に焼痕。
図148-9	壁板材（扉放し材？）	A溝	全長40.2cm、幅7.5cm、厚さ2.6cm	板材。ほぼ完形品。扁平、丁寧なつくり。両端は平坦に切り、上端に突起、下端に抉り。片側辺中央に抉りを意図した工具痕。	全面に大きな削り。	又状欠込2？	弥生時代中期中葉～後半	
図148-10	板材	A溝	全長73.6cm、幅9cm、厚さ4.4cm	板材。ほぼ完形品。厚手、上端はほぼ平坦。下端は両側辺から斜めに削って鋭く尖る。両側辺はほぼ平行、途中で幅を狭くする。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図148-11	壁板材	A溝	全長84.4cm、幅9.2cm、厚さ3.4cm	板材。下部欠損。上部平坦、両側辺はほぼ平行。片面平坦、他面に節。上部に抉り。	抉り部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図148-12	壁板材	A溝	全長63.6cm、幅7.8cm、厚さ1.6cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。			弥生時代中期中葉～後半	部分的に焼痕。
図148-13	壁板材	A溝	全長63.8cm、幅8.8cm、厚さ1.4cm	板材。片側辺を部分的に欠損。扁平、平面長方形と思われる。	部分的に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図149-4	板状具	A溝	全長（27.7cm）、幅16.2cm、厚さ2.9cm	板材。下部欠損。扁平、平面長方形と思われる。	部分的に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図149-7	板状具	A溝	全長（31.1cm）、幅9.2cm、厚さ3.2cm	板材。下部焼失。厚手。上端部不整、ほぼ平坦。両側辺はほぼ平行、両面部分的に段に沿った節。	上端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	下部に焼痕。
図149-8	壁板材	A溝	全長（34.4cm）、幅10cm、厚さ2.3cm	上部欠損。扁平、片側辺は斜めに削りこみ下端部は尖る。上部中央に穿孔。体部は木目に沿って剥落。		貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図149-10	板状具	A溝	全長（31.4cm）、幅7.9cm、厚さ4.3cm	板材。下部焼失。厚手。上端部不整、ほぼ平坦。両側辺はほぼ平行に伸びる。			弥生時代中期中葉～後半	下部に焼痕。
図149-13	板状具	A溝	全長（23cm）、幅10.5cm、厚さ3.7cm	板材。下部焼失。厚手。上端部平坦。両側辺はほぼ平行、片側辺は両面から削りこんで稜をなす。	上端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	下部に焼痕。
図149-14	板状具	A溝	全長（34.2cm）、幅（13.6cm）、厚さ3.6cm	板材。左半及び下半部欠損。扁平、上端部平坦、側辺は真直ぐ伸びる。中央に方形の穿孔。	上端部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図149-16	板状具	A溝	全長（22.5cm）、幅13.4cm、厚さ2.7cm	板材。下部欠損。扁平、上端は平坦に切り、両側辺はほぼ平行。	上端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図149-20	板状具	A溝	全長（17.4cm）、幅10.7cm、厚さ3.7cm	板材。上部焼失。厚手、両側辺はほぼ平行に伸び、下端は斜めに削り込んで突起をつくり出す。片面ほぼ平坦、他面に木目に沿った大きな節。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	両面に焼痕。
図149-23	板状具	A溝	全長（18.4cm）、幅19.3cm、厚さ2.6cm	板材。上部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸び下端は斜めに削りこんで鋭く尖る。両面に自然な節が残る。			弥生時代中期中葉～後半	
図149-30	板状具	A溝	全長（15.2cm）、幅11.7cm、厚さ2.7cm	板材。下部欠損。上端部不整。両側辺はほぼ真直ぐ伸び、両面は整形せず節が残る。	上端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図149-32	壁板材	A溝	全長（23.3cm）、幅(14)cm、厚さ2.8cm	下端及び突起端を欠損。上端部ほぼ平坦。両側辺はほぼ平行。片側辺に10cm幅の突起。片面ほぼ平坦、他面にゆるやかな節。	上端部に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図150-1	垂木	A溝	全長342.8cm、径10.4cm	建材。桁柱。ほぼ完形品。断面不整形、ほぼ均等にゆるやかな弧を描いて伸びる。両端は斜めに切り取る。両端部及び体部3ヶ所に抉り込み。	全体に精巧な削り。	欠込2	弥生時代中期中葉～後半	
図155-1	栓	B溝	全長34.2cm、頭部幅7.2cm、頭部厚5.5cm、体部幅4.2cm、体部厚3.9cm	建材。ほぼ完形品。頭部断面隅丸長方形。上端から4.5cmのところを四面から削り込んで体部をつくり出す。体部はほぼ均等に伸び、下端部は平坦に切り落とす。	頭部及び体下部に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	

図面番号	器種	遺構	法量	形態	技法	仕口	時期	備考
図155-2	栓	B溝	全長30.2cm、頭部幅7.6cm、頭部厚3.4cm、体部幅4.5cm、体部厚3.1cm	建材。ほぼ完形品。頭部断面長方形、水平隅丸長方形、平面隅丸正方形で上端から6.7cmのところで水平に削り込んで体部をつくり出す。体部下段は両側辺から斜めに削り込んで尖る。体部中央に長方形の穿孔。	頭部に削り	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図158-11	垂木	B溝	全長（28.5cm）、幅1.8cm、厚さ1.4cm	上部欠損。細い角材の下端を斜めに削りこむ。体部はとんど加工痕なし。			弥生時代中期中葉～後半	
図158-18	板状具	B溝	全長（23.7cm）、幅9.5cm、厚さ2.4cm	板材．下部欠損。扁平、上端部不整であるが平坦に切り、両側辺はほぼ平行に伸びる。片面は腐蝕が著しい。			弥生時代中期中葉～後半	
図159-4	板状具	B溝	全長（24.8cm）、幅10.8cm、厚さ2.6cm	板材。下部欠損。扁平、上端部不整であるが平坦に切り、両側辺はほぼ平行に伸びる。両面に木目に沿った細い筋が残る。	上端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図159-7	板状具	B溝	全長（25.8cm）、幅（10.2cm）、厚さ2.2cm	板材。右半及び下部欠損。上端部は平坦に切る。側辺は真直ぐ伸びる。下部は腐蝕が著しい。			弥生時代中期中葉～後半	
図159-8	板状具	B溝	全長（31.8cm）、幅14.7cm、厚さ2.2cm	板材。上部欠損。扁平、下端部は不整であるがほぼ平坦に切り、両側辺はほぼ平行に伸びる。	全体に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図159-9	板状具	B溝	全長（18.5cm）、幅13.4cm、厚さ2cm	板材。上部欠損。扁平、下端部は斜めに削り取り両側辺は平行に伸びる。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図159-14	板状具	B溝	全長（82.3cm）、幅5.7cm、厚さ2cm	板材。下部欠損。扁平、上端部は平坦に切る。両側辺は真直ぐ伸びているが部分的に欠損して不整。			弥生時代中期中葉～後半	
図159-17	板状具	B溝	全長（16cm）、幅11.2cm、厚さ4.4cm	板材。下部欠損。厚手。上端部ほぼ平坦。両側辺はほぼ平行に伸びる。			弥生時代中期中葉～後半	
図159-19	板状具	B溝	全長（24.6cm）、幅13cm、厚さ3.6cm	板材。上部欠損か端部は不整であるがほぼ平坦。両側辺はほぼ平行に伸びる。両面に木目に沿った筋が残る。			弥生時代中期中葉～後半	
図159-20	板状具	B溝	全長（26cm）、幅8cm、厚さ2.1cm	板材。下部欠損。扁平、上端部は平坦に切り、両側辺はほぼ平行に伸びる。	上端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図160-1	板状具	B溝	全長（93.4cm）、幅11cm、厚さ3.2cm	板材。上部欠損。扁平、両側辺はゆるやかな弧を描く。下端部は片側辺の弧の曲線のままに続き、他側辺を真直ぐ切って尖っている。			弥生時代中期中葉～後半	
図160-2	壁板材	B溝	全長（74.3cm）、幅9.2cm、厚さ3.1cm	板材。上部欠損。扁平。両側辺はほぼ平行に伸び下部で斜めに削り込み下端部は平坦に切り取る。片側辺4ヶ所に小さな抉り状工具跡。	下端部に削りあり。		弥生時代中期中葉～後半	抉り状工具痕4
図160-3	壁板材	B溝	全長（106.4cm）、幅13cm、厚さ2.8cm	板材。ほぼ完形品。扁平、平面長方形。両面に木目に沿った筋が残る。	両端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図160-6	床材？	B溝	全長127cm、頭部幅13.8cm、体部幅9.2cm、厚さ3.8cm	建材。ほぼ完形品。厚手扁平な板材。頭部平面長方形、体部両側辺はほぼ平行に伸びる。下部に平面長方形の穿孔。	上端部に削り。	貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図161-1	床材？	B溝	全長52cm、幅12.2cm、厚さ8.5cm	縦割りした丸太材の両端を比較的平坦に削り落とす。平坦面側2カ所に長方形の削り込み。		非貫通穴2	弥生時代中期中葉～後半	転用か
図161-2	床材？	B溝	全長59.6cm、幅12.1cm、厚さ4.6cm	両端部部分的に欠損。厚手の扁平な材。下端部平坦、片側辺2カ所に抉り。上端部に長方形の抉り。片側辺は斜めに削りこんで尖る。側辺の抉り面に工具痕。	側辺抉り部に削り。	欠込1 貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図161-3	板状具	B溝	全長（61cm）、幅9.9cm、厚さ1.9cm	板材。上部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸び、下端部は平坦に切り取る。部分的に腐蝕。			弥生時代中期中葉～後半	
図161-4	壁板材	B溝	全長（53.4cm）、幅16.8cm、厚さ1.4cm			貫通穴1	弥生時代中期中葉～後半	
図161-5	板状具	B溝	全長（63.2cm）、幅21.6cm、厚さ1.8cm	板材。上部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びか端部は不整であるが平坦に切り取る。	下端部に削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図161-6	板状具	B溝	全長51.4cm、幅10.2cm、厚さ1cm	板材。ほぼ完形品。薄手、扁平。平面長方形。下端部に2ヶ所、片側辺に2ヶ所小さな円形の穿孔。			弥生時代中期中葉～後半	穿孔4
図161-7	板状具	B溝	全長52.2cm、幅7.2cm、厚さ1.2cm	板材。ほぼ完形品。薄手、扁平。平面長方形。下端部に1ヶ所、片側辺に2ヶ所小さな円形の穿孔。			弥生時代中期中葉～後半	穿孔3
図162-1	壁板材	B溝	全長192.4cm、幅11.6cm、厚さ1.6cm	板材。側辺部分的に欠損するがほぼ完形品。扁平、平面長方形。			弥生時代中期中葉～後半	
図162-2	壁板材	B溝	全長177.4cm、幅14cm、厚さ2.8cm	板材。ほぼ完形品。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。上端部は不整であるがほぼ平坦。下端部は両側辺から斜めに削り込んで鋸歯状に尖る。両面に木目に沿った筋が残る。			弥生時代中期中葉～後半	
図162-3	壁板材	B溝	全長175.4cm、幅15.8cm、厚さ1.8cm	板材。ほぼ完形品。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。上端部はほぼ平坦に切り、下端部は片側辺から斜めに削り込む。片面にゆるやかな筋。			弥生時代中期中葉～後半	
図162-4	壁板材	B溝	全長（195.6cm）、幅14.8cm、厚さ2.8cm	板材。下部欠損。扁平、両側辺はほぼ平行に伸びる。上端部は不整であるがほぼ平坦に切る。片面中央に筋。			弥生時代中期中葉～後半	
図162-5	横架材？	B溝	全長（140.8cm）、幅3.8cm、厚さ2.6cm	上端部欠損。断面長方形の細長い角材。下部でやや幅狭、尖っていない。	部分的に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	
図162-6	横架材？	B溝	全長（117.7cm）、幅3.6cm、厚さ2cm	両端部欠損。断面長方形の細長い角材。下端部は削りこんで幅狭。	全面に大きな削り。		弥生時代中期中葉～後半	

川棚条里跡第1次調査出土木製品一覧表

遺構	番号	法量	器種	仕口	樹種	時期
KT1A-SX100	1	全長130cm、幅62cm、厚さ5cm	扉	貫孔1、突起1	不明	古墳時代初頭～6c代
KT1A-SX100	2	全長120cm、幅15cm、厚さ7cm	水平構造材	貫孔（貫通1、非貫通2）	不明	古墳時代初頭～6c代
KT1A-SX100	3	全長77cm、幅29cm、厚さ1cm	板壁板	穿孔2	不明	古墳時代初頭～6c代
KT1A-SX100	4	全長240cm、幅13cm、厚さ7cm	水平構造材	貫孔（貫通4、非貫通3）	二葉松類（アカマツ、クロマツ等）	古墳時代初頭～6c代
KT1A-SX100	5	全長110cm、幅5cm、厚さ4cm	用途不明材	突起2	スダジイ	古墳時代初頭～6c代

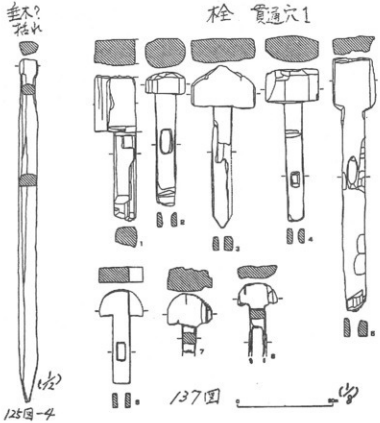
・KT1A-SX100…谷状になった自然流路

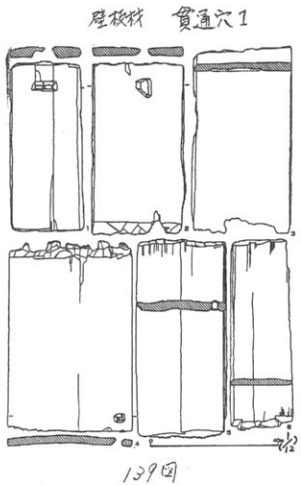
川棚条里跡第4次調査出土木製品一覧表

遺構	番号	法量	器種	仕口	樹種	時期
KT4A-SX050	8	全長30.5cm、頭部幅（5.5cm）、頭部厚1.5cm、体部幅2.5cm、体部厚3.5cm	杭		イヌマキ	弥生時代前期末
KT4A-SX050	9	全長16cm、頭部幅5.0cm、頭部厚1.5cm、体部幅4cm、体部厚2cm	杭	貫孔1	ヒノキ亜科（ヒノキ、アスナロ、サワラ、ネズコ等）	弥生時代前期末
KT4A-SX050	10	全長14.5cm、頭部幅5cm、頭部厚1.5cm、体部幅3cm、体部厚2.5cm	杭	貫孔1	ヒノキ亜科（ヒノキ、アスナロ、サワラ、ネズコ等）	弥生時代前期末
KT4A-SX050	11	全長13cm、頭部幅7cm、頭部厚1.7cm、体部幅3cm、体部厚2cm	杭	貫孔1	ヒノキ亜科（ヒノキ、アスナロ、サワラ、ネズコ等）	弥生時代前期末

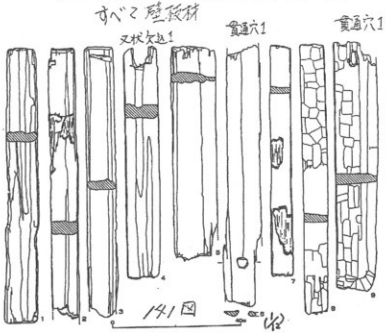
・KT4A-SX050…丘陵先端付近の低湿地

宮ヶ久保遺跡（阿武郡阿東町）弥生時代中期中葉～後半



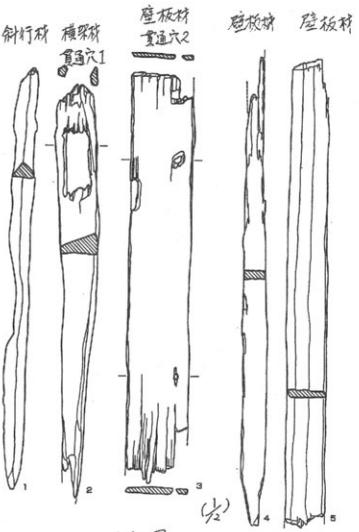


宮ヶ久保遺跡（阿武郡阿東町）弥生時代中期中葉～後半

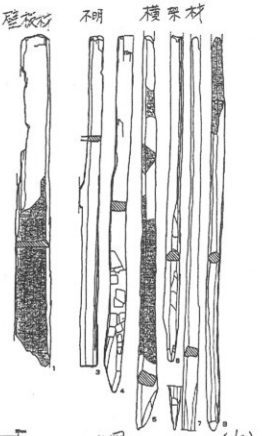


141図

143図

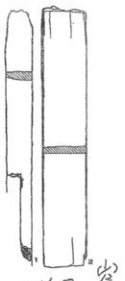


142図

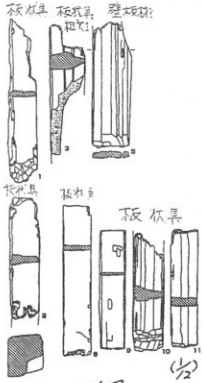


144図

宮ヶ久保遺跡（阿武郡阿東町）
弥生時代中期中葉～後半

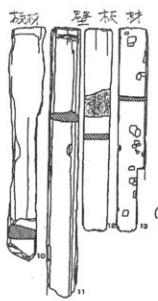


145図

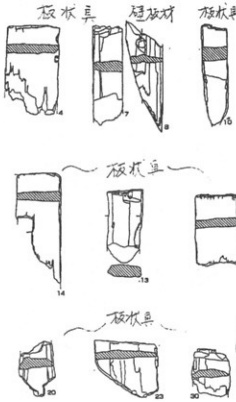


146図

148図

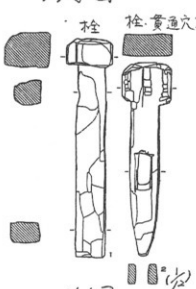


149図



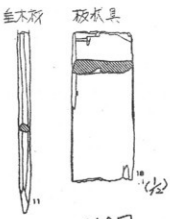
149図

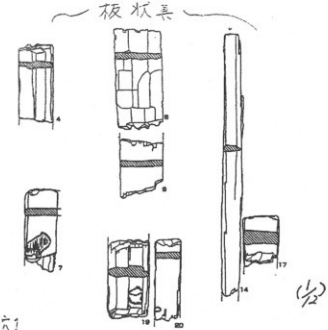
150図1

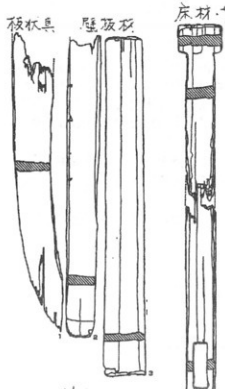


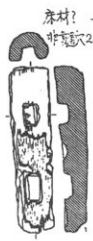
155図

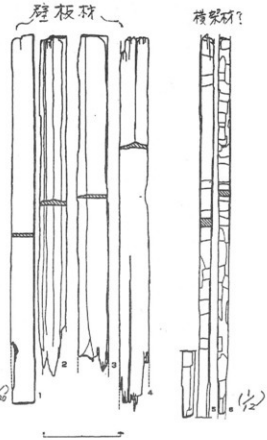
宮ヶ久保遺跡（阿武郡阿東町） 弥生時代中期中葉～後半











四国地区の概要

山下平重

四国地区は、現在のところ建築材の出土はきわめて少量で、時代ことの傾向を追える状況にはないと考えるので、出土状況のみを報告する。また、地域的には徳島県では最近２遺跡で建築材が出土しているようであるが、報告書で好評された」事例はないので、ここでは省略する。

縄文時代の建築材は、今のところ出土していない。

弥生時代前期には、香川県の遺跡での出土例がある。ほぞの仕口をもつ柱材である。ヤマグワやサクラ属の広葉樹が利用されている。木取りは芯持ち、柾目、板目がある。

弥生時代中期には、香川県の遺跡で、縄掛け溝と欠込みをもつ垂木材と考えられる芯持ち材があり、樹種はスダジイである。

弥生時代後期～古墳時代前期には、香川県に欠込みをもつ横架材と考えられる資料があり、芯持ち材を使用している。

古墳時代前期のまとまった資料としては、愛媛県の古照遺跡の資料がある。ほぞを持つ高床柱、ほぞを持つ棟木、欠込みを持つ板材の壁材、非貫通穴、渡りあご、欠込みを持つ梁材、くびれを持つ垂木材がある。構造材は、針葉樹がやや多いと思われ、芯持ち材、半裁材、丸太材である。板材は針葉樹が使われている。また、垂木材は広葉樹の丸太材となっている。なお、ほぞを持つ高床柱には２種類ある。

古墳時代前期～中期の資料として、高知県の居徳遺跡群では、非貫通穴を芯持ちの柱材、くびれを持つ角材の垂木材、ほぞ・非貫通穴を持つ水平構造材があるが、樹種は明らかではない。同じく古墳時代と考えられる居徳遺跡群の資料として、ほぞを持つ板材、垂木材と考えられる欠き込みや大根ほぞを持つ資料がある。樹種はコウヤマキ、カヤ属、アスナロ属といずれも針葉樹である。

古墳時代中期の資料としては、愛媛県の福音寺遺跡では、ほぞや欠込みをもつ構造材が出土しており、いずれも針葉樹で丸太材と芯持ち材である。また、香川県の太田下・須川遺跡では欠込みのある板材がある。板目材で、樹種は不明である。

古墳時代後期から飛鳥時代の資料として、香川県でほぞを持つコナラ節の柾目材を使用した構造材と考えられるものがある。

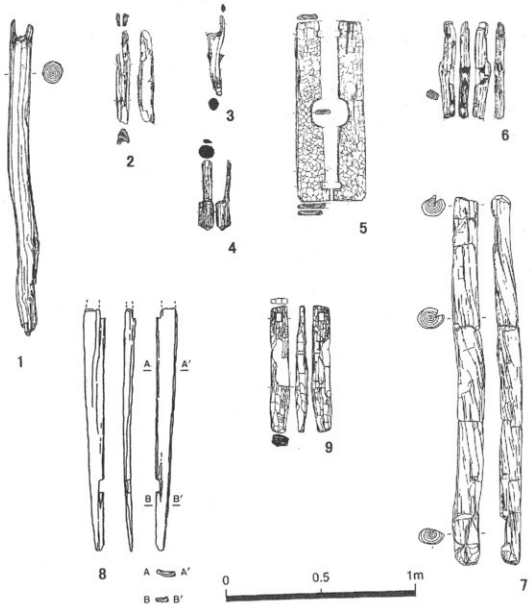
仕口一覧表

時代	ほぞ	欠込み	くびれ	非貫通穴	縄掛け溝	渡りあご
弥生	○	○			△	
古墳	○	○	○	○		△
飛鳥	△					

文献一覧

県名	遺跡名	文献名	発行者	刊行年
香川県	川津下樋遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第21冊	香川県教育委員会ほか	1996
香川県	鴨部・川田遺跡	高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第９冊	香川県教育委員会ほか	2000
香川県	多肥松林遺跡	高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第１冊	香川県教育委員会ほか	1999
香川県	前田東・中村遺跡	高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第３冊	香川県教育委員会ほか	1995
香川県	太田下・須川遺跡	高松東道路建設に伴う埋蔵文化	香川県教育委員会	1995

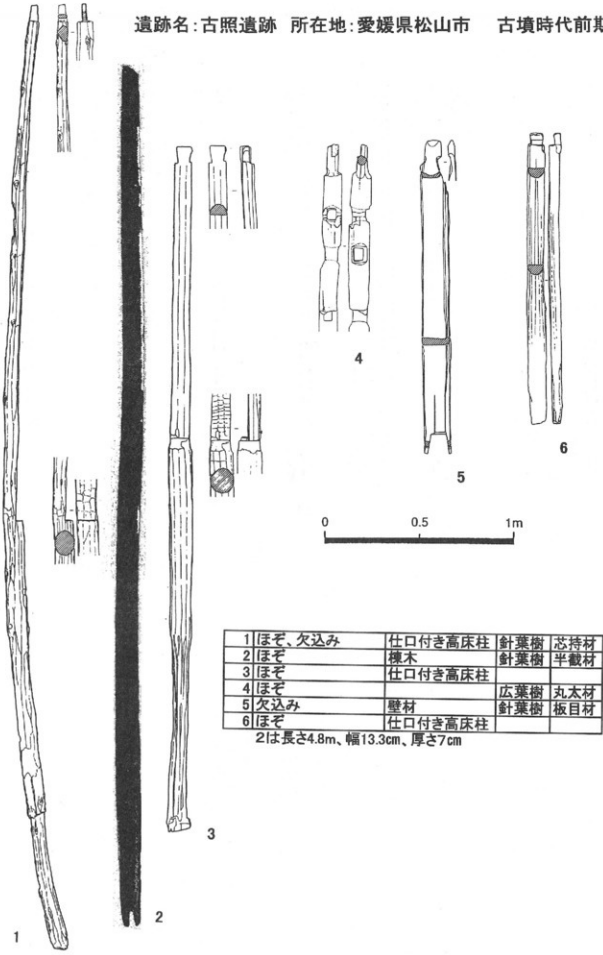
		財発掘調査報告第4冊	ほか	
香川県	川津一ノ又遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第26冊	香川県教育委員会ほか	1997
愛媛県	古照遺跡	古照遺跡	松山市教育委員会ほか	1974
愛媛県	福音寺遺跡	国道11号バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書	松山市教育委員会	1983
高知県	居徳遺跡群	居徳遺跡群Ⅳ	高知県文化財財団埋蔵文化財センター	2003



香川県

1	川津下樋遺跡	坂出市	弥生時代前期	ほぞ	柱材	ヤマグワ	芯持材
2	川津下樋遺跡	坂出市	弥生時代前期	ほぞ	柱材	ヤマグワ	柾目材
3	鴨部・川田遺跡	さぬき市	弥生時代前期	ほぞ	柱材		芯持材
4	鴨部・川田遺跡	さぬき市	弥生時代前期	欠込み	柱材		芯持材
5	鴨部・川田遺跡	さぬき市	弥生時代前期	欠込み	床板	サクラ属	板目材
6	多肥松林遺跡	高松市	弥生時代中期	紐掛け溝、欠込み	垂木材	スダジイ	芯持材
7	前田東・中村遺跡	高松市	弥生時代後期～古墳時代前期	欠込み	横架材		芯持材
8	太田下・須川遺跡	高松市	古墳時代中期	欠込み	板材		板目材
9	川津一ノ又遺跡	坂出市	古墳時代後期～飛鳥時代	ほぞ	柱材？	コナラ節	柾目材

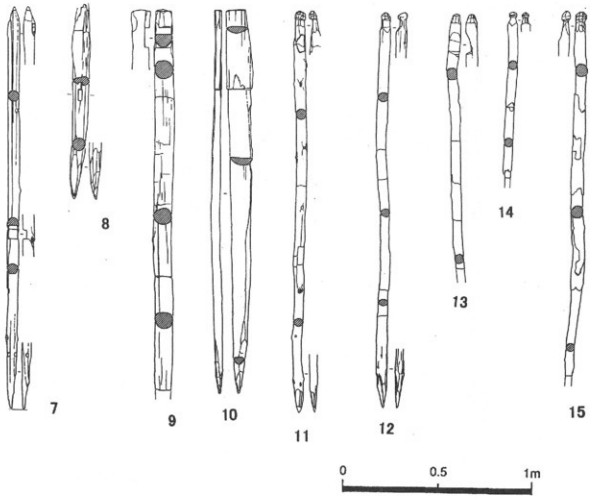
遺跡名：古照遺跡　所在地：愛媛県松山市　古墳時代前期



1	ほぞ、欠込み	仕口付き高床柱	針葉樹	芯持材
2	ほぞ	棟木	針葉樹	半截材
3	ほぞ	仕口付き高床柱		
4	ほぞ		広葉樹	丸太材
5	欠込み	壁材	針葉樹	板目材
6	ほぞ	仕口付き高床柱		

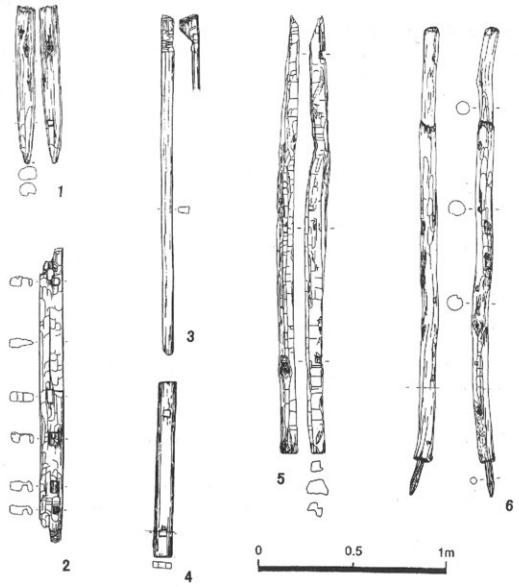
2は長さ4.8m、幅13.3cm、厚さ7cm

遺跡名：古照遺跡　所在地：愛媛県松山市　古墳時代前期



7	不貫通穴、渡りあご	横架材	針葉樹	
8	不貫通穴		広葉樹	
9	欠込み	横架材	広葉樹	丸太材
10	欠込み	板材	針葉樹	板目材
11	くびれ	垂木材	広葉樹	丸太材
12	くびれ	垂木材	広葉樹	丸太材
13	くびれ	垂木材	広葉樹	丸太材
14	くびれ	垂木材	広葉樹	丸太材
15	くびれ	垂木材	広葉樹	丸太材

遺跡名:居徳遺跡群　所在地:高知県土佐市　古墳時代前期～中期



1	不貫通穴	柱材		芯持材
2	ほぞ、非貫通穴	水平構造材		
3	くびれ	垂木材		
4	ほぞ	板材	コウヤマキ	
5	欠込み	垂木材	カヤ属	
6	ほぞ、不貫通穴	垂木材	アスナロ属	丸太材

福岡県（筑前・筑後）の概要

山口譲治

福岡県内の福岡平野・糟屋平野を中心とする筑前地区、筑後平野を中心とする筑後地区では、縄文時代の木製品は後期の出土例が数カ所あるが、建築材といえるものはない。但し、縄文時代草創期の焼失の竪穴住居跡が検出され、炭化材の同定が行われている。弥生時代に入ると、水稲耕作の開始に伴い、用水・井堰などの水利遺構が出現し、木製品がみられるようになり、建築材も弥生時代後期から出土例がある。

縄文時代

福岡市西区の大原遺跡は急傾斜面に位置する崖下遺跡で、草創期の竪穴住居跡５棟が検出され、その中の１棟の竪穴住居跡が焼失した状態で検出でき、住居構築材と考えられる炭化材の樹種識別を実施した結果、ブナ科コナラ属コナラ節（カシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラ）を用材としていることがわかった。（文献:菅波正人編1997『大原D遺跡群２』　池田祐司2003『大原遺跡群４』）

中期末～後期に入ると、いわゆるドングリ貯蔵穴が出現すると、これらの貯蔵穴の中には覆屋構造を持っていたと考えられるものがある。柱を中央に立ててその上の覆屋を乗せているが、広葉樹の芯持ち丸木を用い、縄縛固定していると考えられる。福岡市野多目拈渡遺跡などで検出例がある。

竪穴住居跡は早期～晩期まで、点的に検出されているが炭化材など用材を知ることができる資料はない。また、本県では、晩期後半の突帯文土器期からは水稲耕作が始まり、水利施設が構築されるため建築材もみられるようになるが、ここでは弥生時代前期初頭として取り扱う。

弥生時代前期

福岡市博多区の板付遺跡では、初頭～前半の用水・井堰や一部手を入れた自然河道・井堰、中頃～末の自然河道から、また、博多区では他に、雀居遺跡・下月隈Ｃ遺跡などで初頭～前半の用水や自然河道、中頃～中期前半の土坑から、比恵遺跡・那珂君休遺跡では後半～中期前半の自然河道・土坑から、西区の拾六町ツイジ遺跡・橋本一丁田遺跡では初頭～前半の土坑や包含層、後半～末の土坑から、工具・農具類・容器など各種の木製品に混ざって、少量の広葉樹を用いた建築材が出土している。二丈町大坪遺跡では後半の甕棺墓で、墓坑底に扉を半折りにして敷き倒置した甕棺を安置したものがあり、扉としては最古例といえる。

拾六町ツイジ遺跡と下月隈Ｃ遺跡出土の建築材を提示した。059はユズリハ、30168・30179は広葉樹の芯持ち丸太材を用いた柱材で、前者は端部にホゾ組合せのための組合せ部を持ち、後者は枝分かれ部を用いており叉柱状をなしている。067はモミの板材を用いた角材で組合せのための段を有している。30158はシイ？の柾目取り材を用いた壁材と考えられる板材である。

弥生時代中期

福岡市早良区の四箇遺跡では、前期末～中期前半の溝等から、古賀市鹿部山東町遺跡では前半の、博多区那珂遺跡・比恵遺跡では後半～後期初頭（Ⅳ様式土器併行期）の井戸から、他の木製品に混じって少量の建築材が出土している。前原市の上鐙子遺跡、西区の今宿五郎江遺跡・拾六町ツイジ遺跡、早良区の田村遺跡・原遺跡、博多区の東比恵三丁目遺跡・板付遺跡などでは後期初頭の環濠・土坑・用水など水利施設から、多くの木製品に混じって建築材が出土している。博多区の那珂君休遺跡・南区の笠抜遺跡では、後半～後期初頭の自然河川を堰き止めたアーチ状井堰が検出され、農具・工具など各種の木製品と伴に建築材が出土している。アーチ状井堰は、自然河川から直接水を用水や水田に入れるために設けられたダムであり、多くの杭や横木が使用されているが、横木は柱材などの建築廃材が再利用されている場合が多い。但し、ホゾやホゾ組合せ用の造りだし部・ホゾ孔などを切断して使用している場合が多く、建築材として特定すること

が困難な場合が多い。また、量的にも多く、ほとんどが現在も水漬けの状態で、未図化・未報告のものが多い。筑後地区の夜須町惣利遺跡では、前半～中頃を主体とし、前期末～中期後半の溜井状遺構から工具・農具・容器類など各種多様な木製品と伴に広葉樹を用いた柱材、壁、床材などの建築材が出土している。

ここでは、拾六町ツイジ遺跡出土の建築材を提示した。066は広葉樹の芯持ち丸木を用い、片方端部に縄縛用の切り込みを造りだしている柱材？。057はサカキ？の芯持ち丸木を用い端部下に長方形のホゾ孔を穿っている。068はスギ？の板目取り材を用いた角材で、両端近くにコの字状をなす切り込みを設けている。074はサワグルミ？の芯持ち丸木を用い、同一面に14～20cm間隔で、11ヶ所の桟穴が削り出されている。058はクスノキの芯持ち材を用いた梯子である。

弥生時代後期

福岡市博多区の雀居遺跡・下月隈C遺跡では中頃～後半の環濠や水利施設から、博多区の高畑遺跡・那珂君休遺跡、西区の湯納遺跡、春日市辻田遺跡・門田遺跡、大宰府市雛川遺跡などでは終末期～古墳時代前期初頭のアーチ状井堰を含む水利施設・谷部・土坑・井戸から、筑後地区では平塚川添遺跡・小郡市小郡川原田遺跡で前半～終末の環濠・土坑・水利施設から、工具・農具などの各種の木製品と伴に柱材・横架材・梯子・鼠返しなどの建築材が出土している。

本地域の弥生時代の住居形態は、竪穴住居と掘立柱建物があり、竪穴住居跡からみていくことにする。前期は平面形方形で屋内に炉を持ち、４本の主柱からなる住居がまずあり、前期後半から集落中央部に平面形円形で屋内に暖をとるための中央土坑を持ち、６～８本の主柱とする住居が出現し、弥生時代後期前半頃までこの集落における形態が存在している。後期前半に入ると平面形方形から長方形で屋内に炉や屋内土坑を持ち、１～３辺にベッド状の造りだしを持ち、２本の主柱からなる住居が出現し、古墳時代中期前後に４本の主柱が再現するまで続く。掘立柱建物は、前期初頭から１×５間など細長い建物がまずあり、前期後半に１×２間の建物がよくみられるようになる。また、前期前半～前期末にかけては断面V字状をなす環濠で囲まれた環濠集落が点在している。中期後半になると２×４間以上の規模を持つ超大型建物が環濠を巡らす拠点集落にみられるようになる。また、超大型建物は雀居遺跡などでみると、礎盤や柱材はスギが用いられており、以後の主要建物が針葉樹を用材とするようになる契機といえる。

ここでは、比較的建築材がまとまっている下月隈C遺跡・高畑遺跡・湯納遺跡出土の建築材を提示した。

古墳時代前期

福岡市早良区の四箇遺跡・免（鶴町）遺跡などでは、初頭～４世紀末のアーチ状井堰などの水利施設から、各種の木製品に混じって構築材として利用された建築材がまとまって出土している。但し、井堰など施設構築用として作製されたものもあるが、建築材として区別が困難なものもあるため、ここでは、四箇遺跡・免遺跡の施設構築材を提示した。

古墳時代中期

福岡市早良地区の免遺跡などでは、前期～後期（中期との分離可）のアーチ状井堰などの水利施設から構築材として利用された建築材が出土している。博多区の高畑遺跡などでは中期の用水切り替えの際、古い用水路廃止にあたって柱材など建築廃材を敷き詰め、乱杭で留め、祭祀を行った遺構が点在し、遺跡の立地が低湿地の場合は建築材が多量出土する。その他の建築材を含む木製品の出土ケースとして、水害などで浮遊した木製品が、水田上に遺存したものがみられるようになる。

ここでは、免遺跡・拾六町ツイジ遺跡出土建築材を提示した。

古墳時代後期

福岡市内の免遺跡など各遺跡では、アーチ状井堰などの水利施設から構築材として使用された建築材が、博多区の那珂遺跡・比恵遺跡などでは井戸から井筒構築材として利用された建築材が、

筑紫野市の尾崎遺跡・夜須町の惣利遺跡などでは、井戸など水場構築材として使用された扉などの建築材が出土している。

1．板接ぎ・仕口・継ぎ一覧

時代・時期		貫　穴	仕口（ホゾ）	欠き込み	板接ぎ	備　考
縄文時代		？	？	？	？	
弥生時代前期	前　半	△	○	○	○片側ナナメ	
	後　半	◎方形	○	○	○片側ナナメ	
弥生時代中期	前　半	◎方形	◎方形	◎L・方形	○片側ナナメ	
	後　半	◎方形	◎方形	◎L・方形	◎	
弥生時代後期		◎方形	◎方形	◎L・V・方形	◎	
古墳時代前期		◎方形	◎方形	◎L・V・方形	◎	
古墳時代中期		◎方形	◎方形	◎L・V・方形	◎相欠き	
古墳時代後期		◎方形	◎方形	◎L・V・方形	◎相欠き	

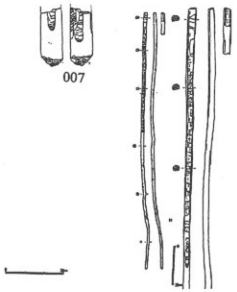
2．柱材等一覧

時代・時期		又受け直柱	凹受け直柱	横架材	壁・床材	備　考
縄文時代		？	？	？	？	
弥生時代前期	前　半	◎	○	？	？	
	後　半	◎	◎	○	○	
弥生時代中期	前　半	◎	◎	○	○	
	後　半	◎	◎	◎	◎	
弥生時代後期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代前期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代中期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代後期		△	◎	◎	◎	

3．特定部位材一覧表

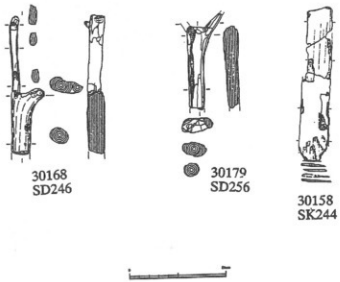
時代・時期		扉関連材	梯子	鼠返し	栓	備　考
縄文時代		×	？	×	×	
弥生時代前期	前　半	？	○	×	？	
	後　半	◎	◎	？	△	
弥生時代中期	前　半	？	◎	？	○	
	後　半	◎	◎	△	◎	扉あり？
弥生時代後期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代前期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代中期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代後期		◎	◎	◎	◎	

遺跡名：拾六町ツイジ遺跡　所在地：福岡県福岡市西区拾六町　弥生時代前期



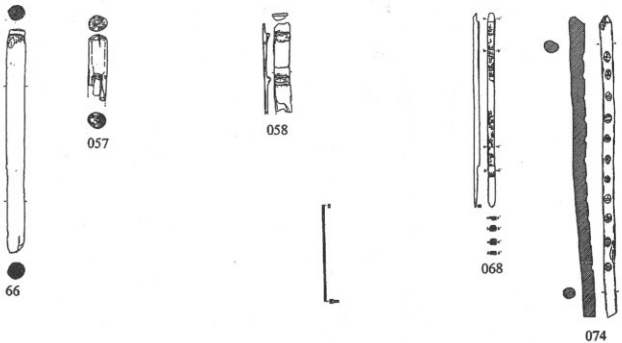
第１号土抗出土（初頭:011 ヒノキ 007）
第３号土抗出土（後半:059 ユズリハ？ 067 モミ 270 モチノキ？ 276 クリ）
270:芯持ち丸木 残存長 19.8cm、幅 10.45cm、最大厚 4.4cm
276:芯持ち丸木 残存長 192.5cm、径 4.9 ～ 11.1cm 先端にU字形の抉りあり
山口譲治・松村道博編 1983『拾六町ツイジ遺跡』
飛高憲雄・山口譲治・濱石哲也編 1985『収蔵目録第１集一西区拾六町ツイジ遺跡Ⅰ一』

遺跡名：下月隈Ｃ遺跡　所在地：福岡県福岡市博多区　弥生時代前期



瀧本正志編 2004『下月隈Ｃ遺跡Ⅳ―福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈Ｃ遺跡第５次発掘調査報告―』

遺跡名：拾六町ツイジ遺跡 所在地：福岡県福岡市西区拾六町　弥生時代後期



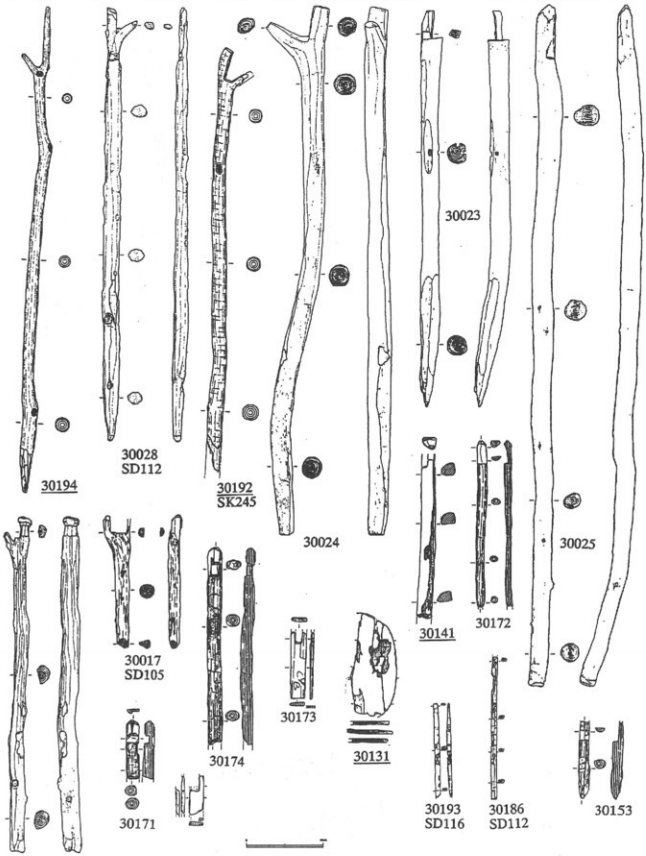
第３号土坑上層出土（初頭:57 サカキ？ 58 クスノキ 273・274 モミ？
275 クリ 370 針葉樹 66・271・279）

第７号土抗出土（初頭:68 スギ？）
第８号土抗出土（初頭:74 サワグルミ）

271:柱 残存長 33.9cm、径 7.95 ～ 8.3cm 端部に方形ホゾ孔あり
273:柱 残存長 127cm、径 10.5 ～ 11.5cm 端部に方形ホゾ孔あり、他端は杭状をなす
274:柱 残存長 133cm、径 9 ～ 10cm 端部に方形ホゾ孔あり、他端は杭状をなす
275:柱 残存長 138cm、径 10 ～ 15cm 端部にＬ字状の削りだしあり
279:梯子 残存長 59cm、幅 13.8cm、最大厚 3.7cm 二段残存
370:柱 残存長 170.6cm、径 9 ～ 9.3cm 端部に方形ホゾ孔あり、他端は杭状をなす

山口譲治・松村道博編 1983『拾六町ツイジ遺跡』
飛高憲雄・山口譲治・濱石哲也編 1985『収蔵目録第１集一西区拾六町ツイジ遺跡Ⅰ一』

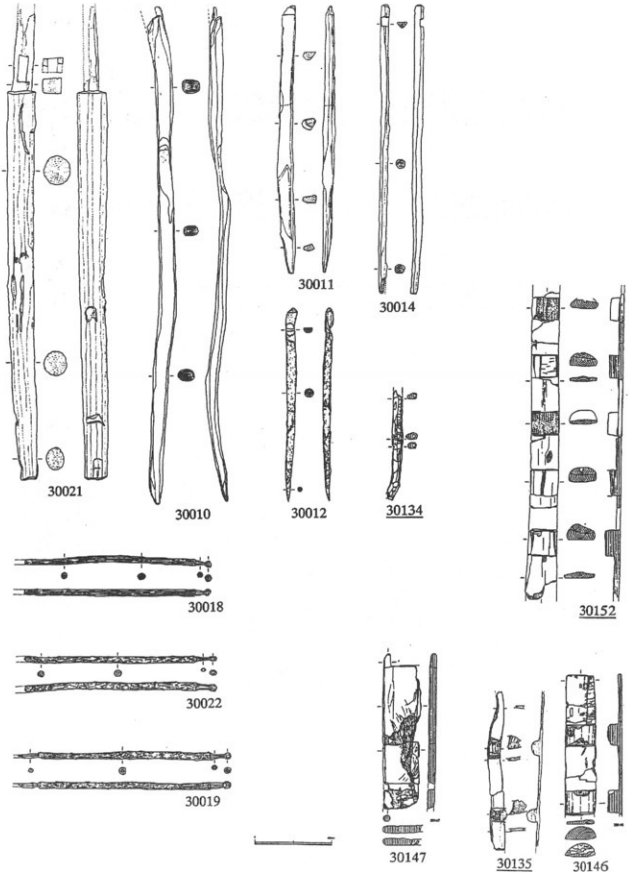
遺跡名：下月隈Ｃ遺跡　所在地：福岡県福岡市博多区　弥生時代後期　No. 1



SD104 出土（30006・30008・30010 ～ 30012・30014・30016・30131・30134・30135・30138 ～ 30141・30146・30147・30152・30153・30169・30192・30194）
SD108 出土（30018 ～ 30025・30171 ～ 30174）

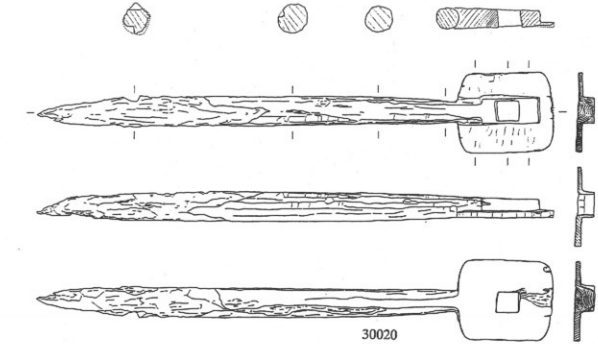
瀧本正志編 2003『下月隈Ｃ遺跡Ⅲ－福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈Ｃ遺跡第４次発掘調査報告－』
瀧本正志編 2004『下月隈Ｃ遺跡Ⅳ－福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈Ｃ遺跡第５次発掘調査報告－』

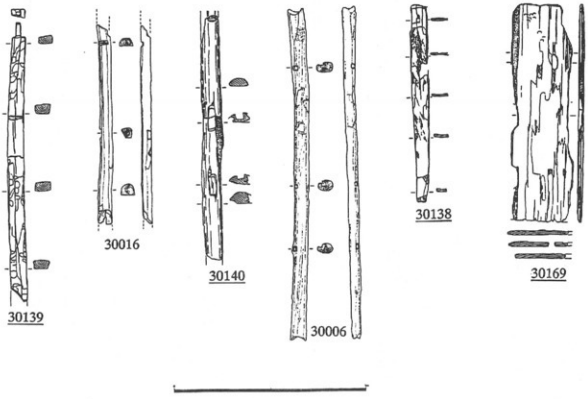
遺跡名：下月隈C遺跡　所在地：福岡県福岡市博多区　弥生時代後期　No. 2



瀧本正志編 2003『下月隈C遺跡Ⅲ―福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第４次発掘調査報告―』
瀧本正志編 2004『下月隈C遺跡Ⅳ―福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第５次発掘調査報告―』

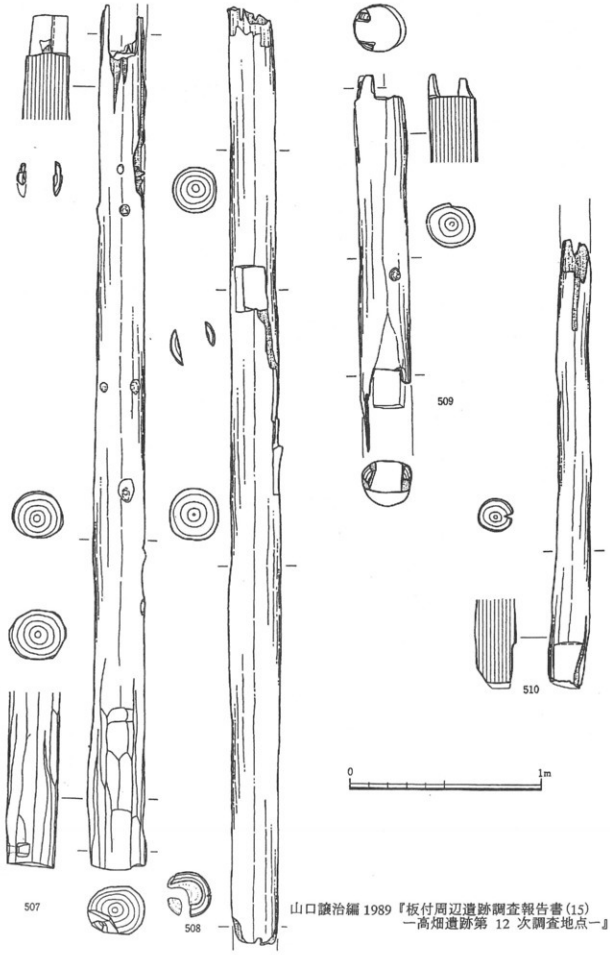
遺跡名：下月隈Ｃ遺跡　所在地：福岡県福岡市博多区　弥生時代後期　No.3





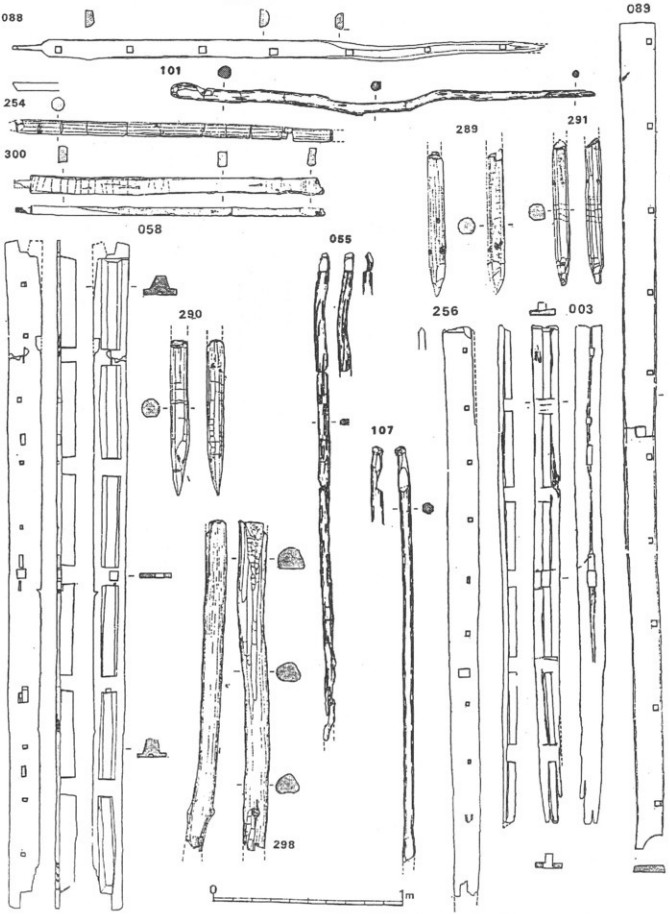
瀧本正志編 2003『下月隈Ｃ遺跡Ⅲ―福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈Ｃ遺跡第４次発掘調査報告―』
瀧本正志編 2004『下月隈Ｃ遺跡Ⅳ―福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈Ｃ遺跡第５次発掘調査報告―』

遺跡名：高畑遺跡　所在地：福岡県福岡市博多区　弥生時代終末期



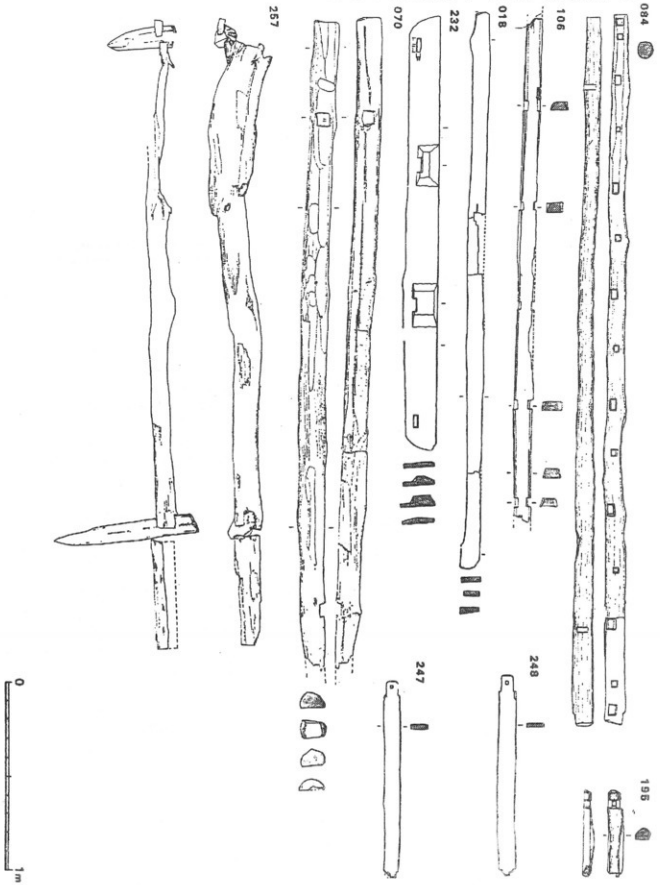
山口譲治編 1989『板付周辺遺跡調査報告書(15)
―高畑遺跡第 12 次調査地点―』

遺跡名：湯納遺跡　所在地：福岡県福岡市西区大字拾六町　古墳時代初頭　No.1



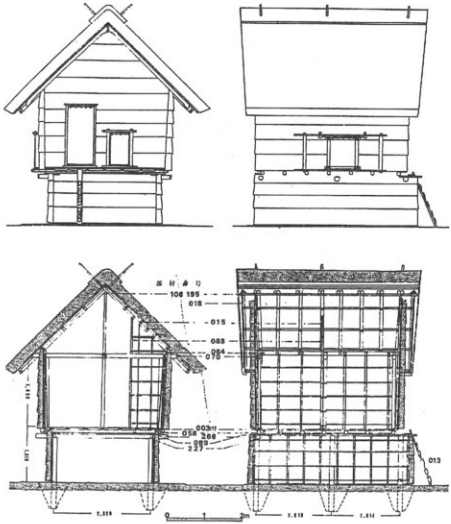
栗原和彦 1977「建築部材について」『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第5集』

遺跡名：湯納遺跡　所在地：福岡県福岡市西区大字拾六町　古墳時代初頭　No.2



栗原和彦 1977「建築部材について」『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第5集』

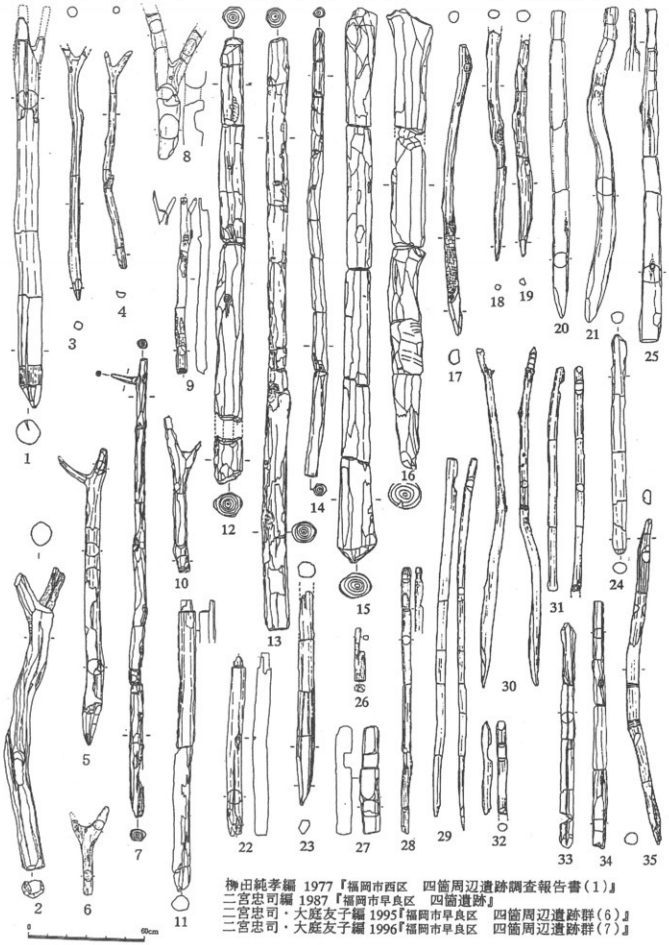
遺跡名：湯納遺跡　所在地：福岡県福岡市西区大字拾六町　古墳時代初頭　No.3



湯納遺跡第８次調査区出土の建築部材からの推定復原家屋

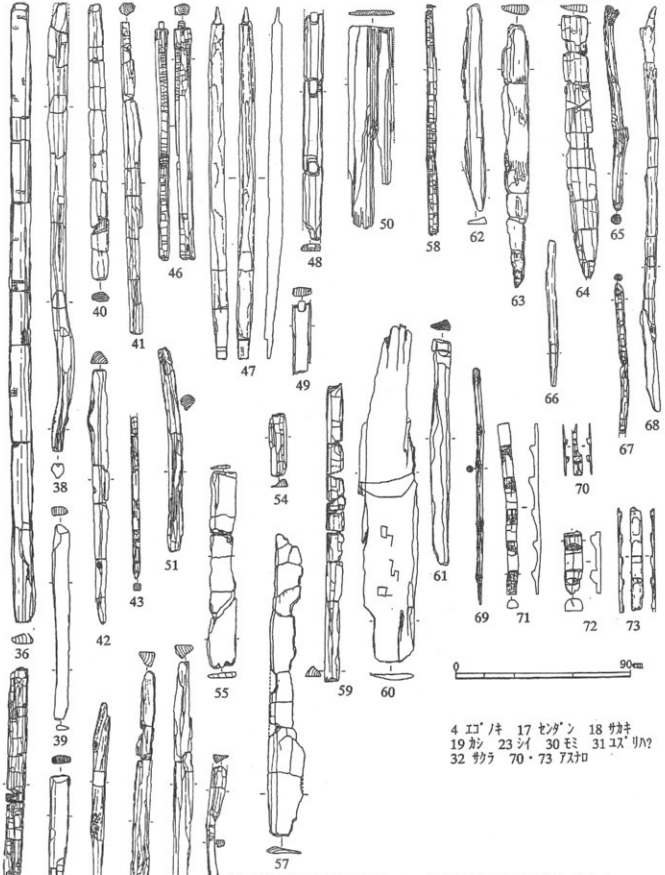
スダジイ（011・086・256）
アカメガシワ（015）　サンゴジュ（228）　ミズキ属（015・078・063）　キハダ属（102）
マツ（019・022・035・058・036・073・089・227）　モチノキ（020）　シラカシ（109）
ヤブツバキ（070）　クスノキ（001）　ビワ属（083）　コガネモチ（096）　散孔材（013）
ツブラジイ（074・106・248・261）　環孔材（018）　クリ（003）　コナラ属（196）
不明（055・084・088・101・107・195・232・247・254・257・289 ～ 291・298・300）
栗原和彦 1977「建築部材について」『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第５集』

遺跡名：四箇遺跡　所在地：福岡県福岡市早良区　古墳時代前期　No.1



柳田純孝編 1977『福岡市西区　四箇周辺遺跡調査報告書（1）』
二宮忠司編 1987『福岡市早良区　四箇遺跡』
二宮忠司・大庭友子編 1995『福岡市早良区　四箇周辺遺跡群（6）』
二宮忠司・大庭友子編 1996『福岡市早良区　四箇周辺遺跡群（7）』

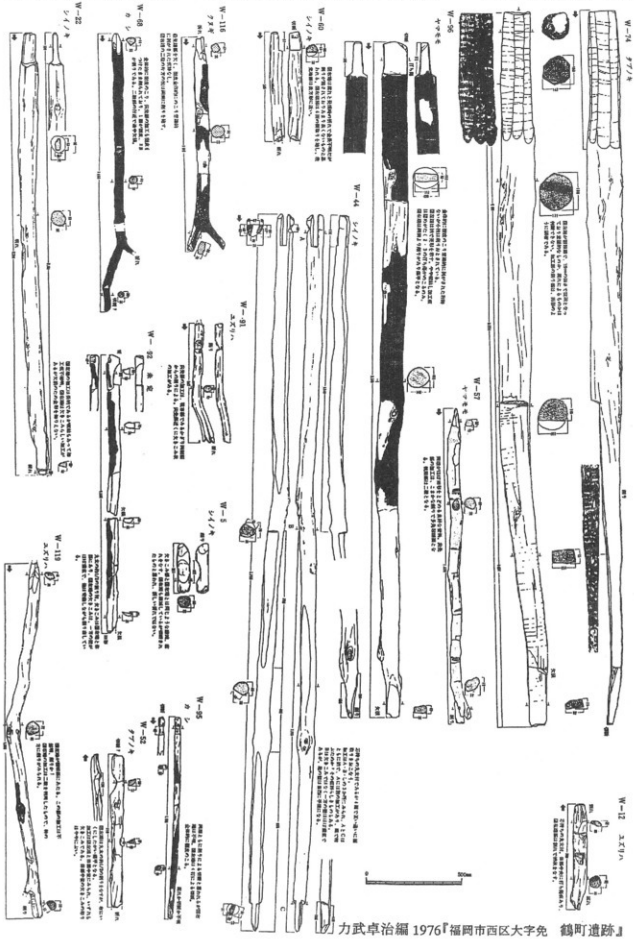
遺跡名：四箇遺跡　所在地：福岡県福岡市早良区　古墳時代前期　No.2



4 エゴノキ　17 センダン　18 サカキ
19 カシ　23 シイ　30 モミ　31 ユズリハ?
32 サクラ　70・73 アスナロ

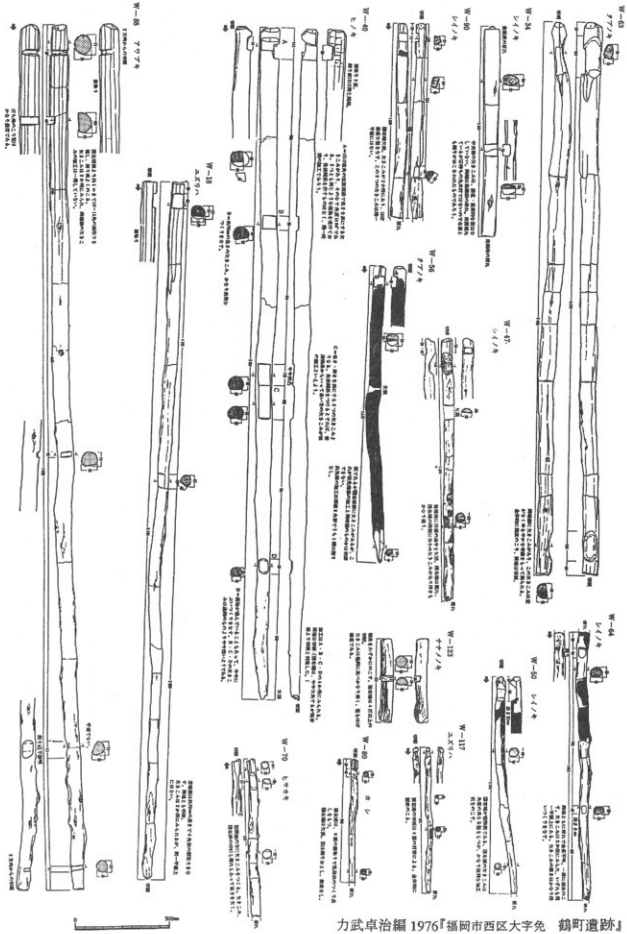
柳田純孝編 1977『福岡市西区　四箇周辺遺跡調査報告書(1)』
二宮忠司編 1987『福岡市早良区　四箇遺跡』
二宮忠司・大庭友子編 1995『福岡市早良区　四箇周辺遺跡群(6)』
二宮忠司・大庭友子編 1996『福岡市早良区　四箇周辺遺跡群(7)』

遺跡名：免(鶴町)遺跡　所在地：福岡県福岡市早良区　古墳時代前期　No.1



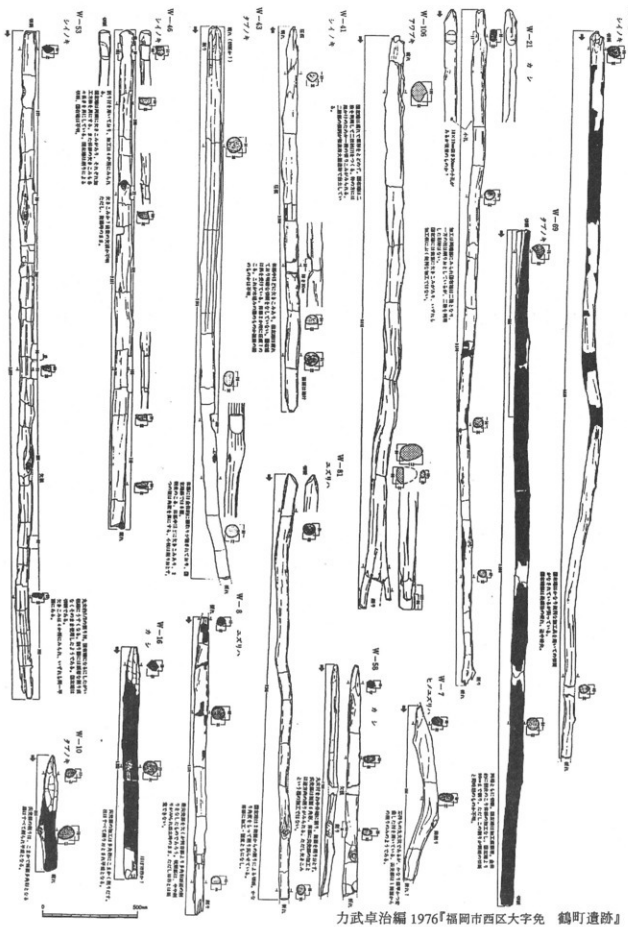
力武卓治編 1976『福岡市西区大字免　鶴町遺跡』

遺跡名：免(鶴町)遺跡　所在地：福岡県福岡市早良区　古墳時代前期 No.2



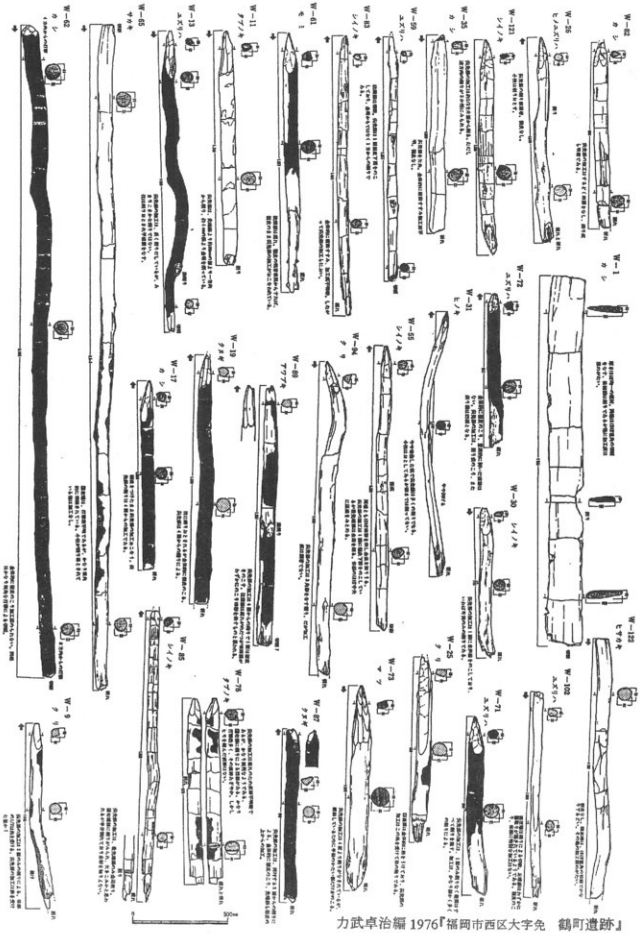
力武卓治編 1976『福岡市西区大字免　鶴町遺跡』

遺跡名：免（鶴町）遺跡　所在地：福岡県福岡市早良区　古墳時代前期　No.3



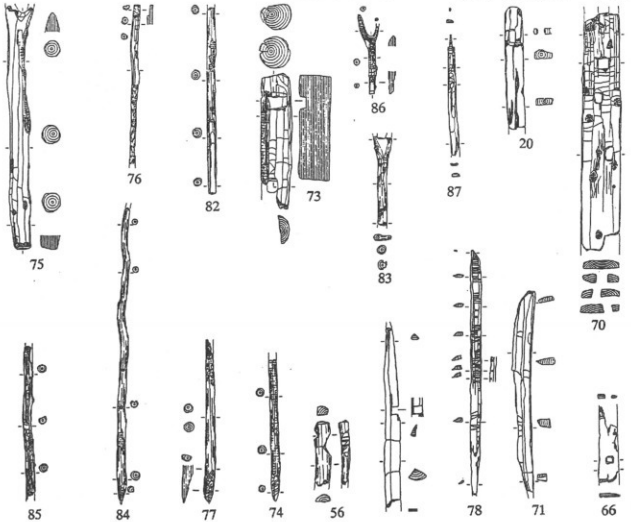
力武卓治編 1976『福岡市西区大字免　鶴町遺跡』

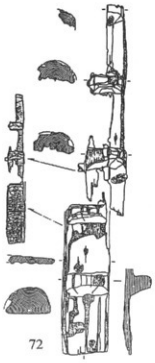
遺跡名：免(鶴町)遺跡　所在地：福岡県福岡市早良区　古墳時代前期　No. 4



力武卓治編 1976『福岡市西区大字免　鶴町遺跡』

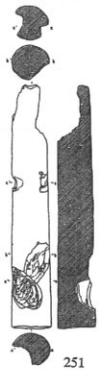
遺跡名：免遺跡　　所在地：福岡県福岡市早良区　　古墳時代前期～中期





第１号溝出土（49・73・76・77・85 スギ　71 クヌギ　70 マツ　78・84 カシ
74・75・82・83 シイ　20・56・86・87 広葉樹）
第３号溝出土（66・72 スギ）
山口譲治・池田祐司 1997「発掘調査の記録―免遺跡第２次調査―」
『福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書―２―』

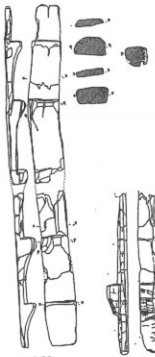
遺跡名：拾六町ツイジ遺跡　所在地：福岡県福岡市西区拾六町　古墳時代中期

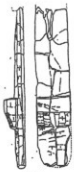

251

360

064

094


250


249

252

093

111

063

062

092

090

V層下出土（4Ｃ～5Ｃ前半:299 針葉樹）　試掘出土（5Ｃ前半:250 クリ）
V層出土（5Ｃ前半:62・249 クリ 63 サカキ？ 367 スギ 369 サクラ類 372 マツ 92・371・376 シイ 64・90・94・93・111・251・252・286・291～293・360・373）
286:垂木 残存長 72.8cm、径 3.9～5cm 片方端部近くにV字状の切り込みあり
291:垂木 残存長 80.5cm、径 4.2～4.5cm 片方端部近くにV字状の切り込みあり
292:垂木 残存長 118.9cm、径 6.7cm 片方端部近くに切り込みあり
293:垂木？ 残存長 146cm、4.7～7.8cm 片方端部近くに縄縛り用の切り込みあり
299:その他 残存長 35.8cm、幅 4.8cm、最大厚 3.15cm 杭状をなし、断面長方形、炭化
367:角材 残存長 46.5cm、幅 6.8cm、最大厚 5.3cm 端部に抉りあり
369:柱 残存長 219.7cm、径 6.5cm 端部にU字状の抉り、頭部下 9 cm に長さ 15cm、深さ 2.5cm の切り込みあり
371:丸太材 残存長 219.7cm、径 6.5cm 測線に５ヶ所Ｌ字状をなす切り込みあり
372:丸太材 残存長 117.4cm、径 4.8～11.4cm
373:垂木 残存長 181.5cm、径 5.05～6.4cm 両端部近くにU字状の切り込みあり
376:その他 残存長 94cm、幅 14cm、厚さ 4～6.5cm 片方測線に抉りあり

山口譲治・松村道博編 1983『拾六町ツイジ遺跡』
飛高憲雄・山口譲治・濱石哲也編 1985『収蔵目録第１集一西区拾六町ツイジ遺跡Ⅰ一』

福岡県東部の概要

佐藤浩司

福岡市周辺域とともに九州で最もまとまった建築材を含む木製品が出土するのは北九州市・行橋市のある豊前北部地域である。低湿地の調査が進んだ結果、丘陵をめぐる谷あいの包含層や自然流路から各種大量の木製品が出土している。

行橋市下稗田遺跡は、京都平野の奥部の独立丘陵に200軒の竪穴住居跡と2000基にのぼる貯蔵用竪穴をもつ集落跡で弥生時代前期～中期を中心とする。丘陵をめぐる谷地で検出された自然流路内で多量の木製品が出土したが、農具の未製品が多く巨大集落における生産活動の一端が伺える。

一方、北九州市域の木製品出土遺跡の立地としては大きく二つに分けられ、一つは東の周防灘にむかって開けた市域最大の曽根平野の沿岸部とその河川沿いの内陸部、もう一つは市域の中央部を南北に流れる紫川中流域部である。木製品は各種農工具を中心に、容器類、組み物部材、建築部材など多岐にわたっており、特に農具類の未製品が出土する遺跡がめだつ。しかもそれらは木製品の水漬け遺構のなかでみつかることが多く、遺構、遺物ともに当時の木器生産を考える上で、日本でも有数のフィールドといえる。

建築部材については、壁板材、柱材、梁材、桁材を中心に垂木材、斜行材、梯子、扉材とその部品（まぐさ木）、ねずみ返し、礎板などほとんどすべての建築部材が確認できている。

1．下稗田遺跡（行橋市）

幅8.5cm、深さ30～40cmの自然流路内には土坑２基が築かれ、100点を超える木製品が出土した。１号土坑は隅丸長方形で床に丸太材を敷き、矢板で組んだもので二連鍬と平鍬の未製品が水漬けされていた。流路の包含層からは他に竪杵、椀形容器、案、丸鍬・斧柄の未製品、組み合わせ木器などが検出されたが、部位のわかる建築部材としては扉材が１点出土している。

本遺跡の木製品は伴出する土器から弥生前期後半までにおさまり、この地域で最も古い時期のもので、福岡市域のそれと対比する上で重要である。

＊末永弥義、宮原晋一「第２章　旧河川地区の調査」『下稗田遺跡』行橋市文化財調査報告書第17集　下稗田遺跡調査指導委員会　1985

2．守恒遺跡（北九州市）

紫川中流域に位置し低湿地を地山整形した水溜遺構内で、梯子３点が丸鍬未製品とともに出土している。仕口のわかる１点には上端部に相欠があり、ねずみ返しを受ける役目を果たすものであろう。木製品とともに中国前漢代の五銖銭と弥生中期後半代の須久Ⅱ式土器が共伴しており、実年代を考える第１級の資料となった。

＊梅崎恵司他『守恒遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第50集　北九州市教育事業団　1986

3．カキ遺跡（北九州市）

北に延びる丘陵間の狭い谷地とその中にある微高地に存在する。木製品は微高地を切断して北流する４a号溝（古墳時代後期）の井堰周辺や底面に集積した状態で出土し、多数の建築部材が含まれていた。また、微高地に堆積した弥生後期の洪水層中には農具を中心とする大量の木製品が見つかった。

建築部材は桁材や壁板材などの横架材、柱材、斜行材、ねずみ返し、扉板などがみられる。

仕口としては、貫通穴、欠込が目立ち、柱材には又状欠込が施されている。建築部材の一部には針葉樹が用いられ、その他は多くがシイ属でしめられており、大半がアカガシ亜属でしめられる農具とは厳然たる差異が認められる。

＊小方康宏『カキ遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第116集　北九州市教育文化事業団　1992

4．貫川遺跡（北九州市）

丘陵裾を東流する貫川の川底に位置し、周防灘河口まで２kmの距離にある。縄文晩期の流路からは魚を追い込む施設であるエリが確認され、弥生中期の井堰２カ所、古墳前期の井堰４カ所もみつかった。農具や建築材をはじめとする多種の木製品は弥生終末から古墳初期の旧河道に堆積した包含層中に認められ、建築部材としては柱材、扉材、床材、壁板材のほかねずみ返し、梯

子が出土しており、高床式倉庫の構築材として復元が可能である。仕口が確認できる資料が少ないが柱材にはあらかじめL字型に製材して通しほぞを設けたものもあり、より具体的な組み合わせ材の検討が必要である。

樹種についてはまとまった分析はなされていない。

＊前田義人『貫川遺跡７』北九州市埋蔵文化財調査報告書第139集　北九州市教育文化事業団　1993

５．長野小西田遺跡（北九州市）

曽根平野の最奥部、長野川をのぞむ谷底平野に位置する。自然流路を利用した大規模な木製品水漬け遺構と、ドングリの水さらし遺構が検出された。弥生前期末から後期前半までを中心に農具を主とした木器生産から植物性食料加工と繊維素材の製造で、この地域の拠点集落へと成長していく状況が伺える。

建築部材としては柱材、桁材、壁板材、垂木材がみられるが、いずれも木枠組遺構へ転用されており、農具の未製品の量に比べると非常に少ない。柱材、桁材の仕口には欠込が目立つが、これは流水を下流側の木枠に落としていくために現地で設けられたものも存在するため、建築部材としての仕口傾向とは異なる。樹種はクリ、サカキがみられる。樹皮を残したままのものもあり、転用かどうかの検討も必要である。

＊前田義人『長野小西田遺跡（Ｂ－２区、Ｃ区）』北九州市埋蔵文化財調査報告書第248集　北九州市教育文化事業団　2000

＊佐藤浩司『長野小西田遺跡２』北九州市埋蔵文化財調査報告書第262集　北九州市教育文化事業団　2001

６．上清水遺跡（北九州市）

横代川流域の低位段丘にはさまれた狭い谷底平野に位置する。Ⅲ区の包含層からは弥生後期終末～古墳初期の土器が大量に出土し、木製品もその中で３カ所に集中してみつかった。農具が多く未製品も一定量みられる。建築部材は極めて少なく、壁板材に目違継のあるもの、横架材に欠込があるものがみられる程度である。樹種はツブラジイ、クリ、モミ、スギがあり、針葉樹材も利用されている。

＊柴尾俊介『上清水Ⅰ区』北九州市埋蔵文化財調査報告書第130集　北九州市教育文化事業団　1993

＊佐藤浩司『上清水Ⅲ区』北九州市埋蔵文化財調査報告書第160集　北九州市教育文化事業団　1995

７．金山遺跡（北九州市）

上清水遺跡、カキ遺跡の至近距離に位置する。丘陵裾部から低地に移行する地点にあり、弥生終末期～古墳初期の自然流路内とそれを覆う包含層から大量の土器、木製品が出土した。護岸用の矢板列や井堰も各所でみられ、建築部材の多くは転用されていた。柱材、壁板材、桁材、梁材、垂木材、扉板、梯子など多種にわたる。柱材には又状欠込が、垂木材や斜行材にはくの字欠込が多く認められる。垂木材には長さや径が異なる２種が存在し、竪穴住居跡を構成する上下２段の垂木に相当するものと思われる。

また、注目すべきものとして扉板がある。下端部側に通常の軸を、上端部側の側面にはくり込みのある軸を有し、中央には方形の貫通穴をもつ。その形態や大きさ、幅などから、通常の倉庫に付く扉とは考えにくく、竪穴住居跡に取り付く片開きの扉板と考えている。

樹種については、柱材はクリを中心にシイ、サカキ、シャシャンボ、タブノキ、壁板材はシイ、クス、アカガシ亜属、桁・梁はマツ、クリ、ツバキ、垂木材がサカキを中心に、シャシャンボ、ツバキ、ヒサカキ、アカガシ亜属、また扉板はクスノキが利用されている。

＊佐藤浩司『金山遺跡Ⅰ・Ⅴ区』北九州市埋蔵文化財調査報告書第223集　北九州市教育文化事業団　1999

＊山手誠治『金山遺跡Ⅳ区』北九州市埋蔵文化財調査報告書第184集　北九州市教育文化事業団　1996

８．長野Ａ遺跡（北九州市）

周防灘に注ぐ竹馬川流域に属し、丘陵裾の谷底平野に位置する。谷地には古墳時代後期の水田跡がみつかり、木製品はその耕作土中や丘陵部の土坑から出土した。建築部材には扉のまぐさ木、ねずみ返しがある。木遺跡は古墳時代後期をピークとし、隣接する丘陵部に計100軒にのぼる竪穴住居跡が存在したものと考えられるが、立地上自然流路が見られず、木製品の出土地点も限定的であった。おそらく古墳時代後期の木製品生産は、弥生時代のそれと作業立地や、生産形態を異にするものと考えられる。

＊佐藤浩司『長野A遺跡２』北九州市埋蔵文化財調査報告書第54集　北九州市教育文化事業団　1987

9．宇留津川角遺跡（築上郡椎田町）

沖積平野に位置し、用水路的機能を持つ幅３ｍの溝から竪杵、つちのこ（未製品あり）、横槌、泥よけ（方形穴）、二又鍬、ナスビ形（鋤とする）、平鍬、農具の柄、一木鋤、ヘラ状木器、臼、編み台目盛り板、脚付盤、盤の足か把手、椅子の脚部、机タイプの案（←刃物をつかった作業痕もあり）、ねずみ返し、紡織具？、壁材、扉板など多様な木製品が出土しており、その数は700点以上という。建築部材には主柱・支柱、壁材、天井材があり加工痕跡や緊縛痕跡がみられるが、仕口の詳細は不明である。時期は伴出する須恵器の年代から５世紀前半と考えられる。

ねずみ返しは方形の貫通穴を持つものが２点出土し、うち１点はヤマモモである。

扉板は両端に軸をもつ全長67.2cmのやや小型品と、全長109.6cmで削り出しの把手をもつ大型品がある。前者はモミ、後者はシナクスモドキである。

溝に隣接して、竪穴住居11棟、掘立柱建物跡４～５棟が検出されているが、木製品はつちのこを除いてはいずれも完成品で、集落内で顕著な木製品加工を行った痕跡は見られない。

＊山本健太郎『目奈古・宇留津周辺の遺跡と岩丸・福間の遺跡』横田町文化財調査報告書第11集　2001

10．下前田遺跡（築上郡犀川町）

犀川盆地を流れる今川の支流、末江川沿いの狭長な谷底平野北端の緩斜面上に位置する。調査区西端で北流する溝（幅1.5m、深さ50cm）が検出され、多量の土器、木製品が出土した。供献用高杯や初期須恵器などから古墳時代中期５世紀代に比定できる。

木製品は農具（鍬・鋤・鎌柄）、つちのこ、大足、弓、紡錘車、椅子の脚部、木剣？などがあるが、建築部材はほぞのある組材や礎板らしき部材がわずかにみられる程度である。全体的に未製品は殆どないようである。

＊木村達美「下前田遺跡および寺前遺跡発掘調査の概要について」『郷土誌さいがわ第十二号』犀川郷土史研究会

仕口総括表

時代	遺跡	貫通穴	非貫通穴	欠込	L字欠込	又状欠込
弥生前期後半	下稗田遺跡	×	×	×	×	×
弥生中期後半	守垣遺跡	×	×	×	×	×
弥生中期後半～後期	カキ遺跡 長野小西田遺跡	○	×	○	×	○
弥生終末～古墳初期	貫川遺跡 上清水遺跡 金山遺跡 カキ遺跡	◎	×	○	×	◎
古墳中期	宇留津川角遺跡	○	×	○	×	×
古墳後期	カキ遺跡 長野A遺跡	◎	○	○	×	○

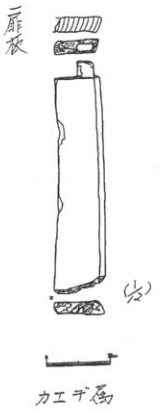
時代	遺跡	くの字欠込	相欠	目違継	括れ	通しほぞ	L字製材
弥生前期後半	下稗田遺跡	×	×	×	×	×	×
弥生中期後半	守垣遺跡	×	○	×	×	×	×
弥生中期後半～後期	カキ遺跡 長野小西田遺跡	○	○	×	×	×	×
弥生終末～古墳初期	貫川遺跡 上清水遺跡 金山遺跡 カキ遺跡	◎	○	○	◎	◎	○
古墳中期	宇留津川角遺跡	○	×	×	○	○	×
古墳後期	カキ遺跡 長野A遺跡	×	○	×	×	○	×

福岡県東部（豊前北部）

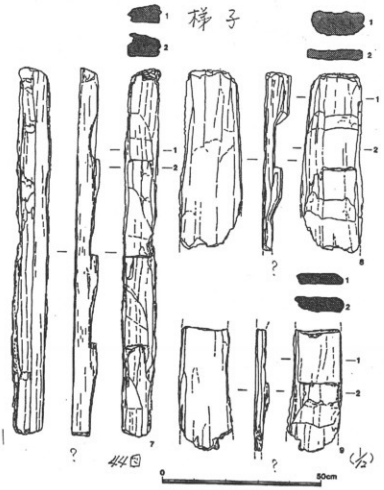
遺跡名	種類と挿図№	継手・仕口	出土地点・検出遺構	時期	備考	特徴
下稗田遺跡	扉板	なし	自然流路	弥生前期後半		
守恒遺跡	梯子44-7	端部 相欠1	地山整形した水溜遺構内	弥生中期後半		
	梯子44-8	不明	〃	〃		
	梯子44-9	〃	〃	〃		
カキ遺跡	壁板材 11-0403	貫通穴2~	M4a	古墳後期		
	壁板材 11-0387	貫通穴1~	〃	〃	転用	
	桁材 14-0400	相欠1、非貫通穴1	〃	〃		
	桁材 14-0413	欠込1、非貫通穴1	〃	〃	角材に近い、転用	
	ネズミ返し15-0412	貫通穴1	〃	〃	転用	
	ネズミ返し？15-0409	貫通穴3	〃	〃	〃	
	壁板材？ 15-0243	欠込1	〃	〃	〃	
	壁板材？ 15-0310	貫通穴2、又状欠込1	〃	〃	〃	
	横架材？ 16-0411	相欠1、貫通穴1	〃	〃	〃	
	横架材？ 16-0408	貫通穴1	〃	〃	〃	
	柱材16-0299	通ほぞ1	〃	〃	〃	
	斜行材 17-0390	又状欠込1	〃	〃	3.375m	
	横架材17-0361	なし	〃	〃	三角材	
	横架材17-0391	なし	〃	〃	〃	端部尖る
	横架材17-0288	なし	〃	〃	〃	
	壁板材22-1206	相欠1	〃	〃		
	壁板材22-1047	相欠1	〃	〃		
	扉板25-1192	貫通穴2	1号井堰	古墳前期	転用	
	柱根51-0352	なし	2号掘立柱建物跡	弥生後期		
	柱根51-0356	なし	〃	〃		
	柱根51-0374	なし	1号竪穴住居跡	〃		
	柱根51-0379	なし	2号竪穴住居跡	〃		
	柱根51-0101	なし	2号掘立柱建物跡	〃		
	柱根51-0914	なし	3号掘立柱建物跡	〃		
	柱根51-0819	なし	掘立柱建物跡	〃		
	柱根51-1014	なし	掘立柱建物跡	〃		
	柱根51-0355	なし	4号掘立柱建物跡	〃		
	柱根51-1016	なし	4号掘立柱建物跡	〃		
	柱根51-0357	なし	4号掘立柱建物跡	〃		
	柱根51-0095	なし	4号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1020	なし	6号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1022	なし	6号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1072	なし	11号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1013	なし	9号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1015	なし	9号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1018	なし	掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1191	なし	掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-0994	なし	10号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-0770	なし	10号掘立柱建物跡	〃		
	柱根52-1017	なし	10号掘立柱建物跡	〃		
	礎板52-0660	なし	掘立柱建物跡	〃	半裁丸太	
	礎板52-0972	なし	6号掘立柱建物跡	〃	〃	
	柱材91-0397	又状欠込1	5層	〃	杭に転用	
	横架材91-0392	くの字欠込1	〃	〃		
	横架材96-0326	貫通穴1	地山直上	〃	角材	
貫川遺跡	ネズミ返し154-46	貫通穴1	Ⅶ層	弥生終末～古墳前期		
	ネズミ返し154-47	貫通穴1	Ⅶ層上層	〃		
	梯子155-48	なし	灰色粗砂層	〃		
	扉のまぐさ木155-49	貫通穴1、又状欠込2	Ⅶ層下層	〃	軸穴のこと	
	扉のまぐさ木155-50	又状欠込(2)	Ⅶ層	〃		
	柱材156-51	L字製材、通しほぞ1	灰色粗砂層	〃		
	柱材156-52	なし	暗灰色粗砂層上層	〃	又部に削痕あり	
	垂木材156-53	なし	灰色粗砂層上層	〃	両端削る	金山とは違う
	垂木材157-54	なし	灰色粗砂層上層	〃	〃	
	垂木材157-55	なし	灰色粗砂層上層	〃		
	柱材157-56	なし	不明	〃	又部に削痕あり	又部は必ず加工か
	柱材157-57	なし	不明	〃	〃	
	柱材157-58	なし	不明	〃	〃	
	横架材158-59	なし	不明	〃		
	横架材158-61	なし	不明	〃		
	横架材160-68	なし	灰色粗砂層上層	〃		
	壁板材159-62	なし	杭列内	〃		
	壁板材159-63	なし	不明	〃		
長野小西田遺跡	横架材か213-5	貫通穴3	7号木枠	弥生中期後半～後期		
	桁材217-1	欠込1	6号木枠	〃		
	桁材217-2	相欠2	〃	〃		
	桁材217-3	なし	NT401西	〃		
	壁板材 218-8	貫通穴1	1号木枠	〃		
	垂木材219-4	なし	W9	〃	先端尖る	
	柱材220-3	欠込2	7号木枠	〃		
	壁板材 221-3	欠込1	3号木枠	〃		

上諏水遺跡Ⅰ区	壁板材 104-8	自然層1	旧川川	弥生終末～古墳初期		
Ⅲ区	横架材71-108	なし	8層下面	〃		
	横架材71-109	なし	8層最下層	〃		
	横架材71-110	なし	9層最下層	〃		
	横架材72-115	欠込1	8層上層	弥生終末～古墳後期		
金山遺跡Ⅴ区	脚板84-1	貫通穴1	7～8層	弥生終末～古墳前期	軸2カ所あり	
	棒子85-1	なし	自然流路	〃		
	棒子85-2	通し昼ぞ1	6層下～7層	〃		
	棒子85-3	なし	自然流路	〃		
	桁材？85-4	貫通穴1	〃	〃		
	柱材86-1	通し昼ぞ1	〃	〃		
	柱材86-2	〃	〃	〃		
	柱材86-3	又状欠込1	〃	〃	又部に削痕あり	
	柱材86-4	又状欠込1	〃	〃	〃	
	柱材87-1	又状欠込1	〃	〃		
	柱材87-2	通し昼ぞ1	〃	〃		
	柱材87-3	貫通穴1	〃	〃		
	柱材87-4	又状欠込1	〃	〃	転用	
	柱材88-1	又状欠込1	〃	〃	角材	
	桁材88-2	欠込2	〃	〃		
	桁材88-3	欠込1	〃	〃		
	柱材88-4	なし	〃	〃		
	壁板材 89-1	貫通穴3	〃	〃		
	壁板材 89-2	相欠1	〃	〃		
	壁板材 89-3	なし	〃	〃		
	壁板材 89-4	貫通穴1	〃	〃	一端尖る、転用	
	脚材 89-6	欠込1	6層	〃		
	柱材90-1	なし	自然流路	〃	又部あり	
	柱材 90-2	又状欠込1	〃	〃		
	垂木材90-3	なし	〃	〃		
	垂木材90-4	抉れ1	井堰	〃	他端尖る	
	垂木材90-5	くの字欠込3	自然流路	〃	方向違える	
	斜行材90-6	くの字欠込1	〃	〃		
	桁材90-7	欠込1	〃	〃		
	斜行材90-8	なし	〃	〃	一端尖る	
	垂木材91-1	抉れ1	〃	〃		
	垂木材91-2	抉れ1	〃	〃		
	垂木材91-3	抉れ1	7～8層砂利	〃	一端尖る	金山遺跡独特か
	斜行材91-4	なし	自然流路	〃	両端尖る	
	垂木材91-5	なし	〃	〃	一端尖る	
	斜行材91-6	なし	〃	〃	両端尖る	
	脚材 91-9	くの字欠込1	〃	〃	転用	
	垂木材92-1	抉れ1	6層下～7層	〃		
	垂木材92-2	抉れ1	〃	〃		
	垂木材92-3	なし	5層下～6層	〃	一端尖る	
	垂木材92-4	なし	自然流路	〃	一端尖る	
	垂木材92-5	なし	〃	〃	一端尖る	
	桁材92-6	欠込1	〃	〃	一端尖る	
	垂木材92-7	くの字欠込1	〃	〃		
金山遺跡Ⅵ区	棒？76-38	なし	包含層	〃		
	壁板材76-41	なし	1群杭列	〃		
	脚板82-76	貫通穴1	不明	〃	軸部あり	
	脚板82-77	貫通穴1	1群流路	〃		
	桁材82-79	くの字欠込1	不明	〃		
	柱材82-80	なし	〃	〃		
	柱材82-81	なし	〃	〃	又部に削痕あり	
長野A遺跡Ⅱ区	ネズミ返し64-1	貫通穴1	？	古墳後期		
	ネズミ返し64-2	貫通穴1	？	〃		
	脚のまぐさ木	貫通穴2、又状欠込2	3号土坑	奈良まで		
Ⅴ区	ネズミ返し166-2	貫通穴1	8～9層	〃		
樋ヶ迫遺跡	〃脚板	貫通穴1	12号土坑	古墳前期	腰形把手	
宇留津川舟遺跡	ネズミ返し182-42	貫通穴1	1号溝	5世紀		
	ネズミ返し182-43	貫通穴1	〃	〃		
	垂木材187-57	なし	〃	〃		
	垂木材187-58	抉れ1	〃	〃		
	柱材187-59	通し昼ぞ1	〃	〃		
	壁板材187-60	なし	〃	〃		
	壁板材187-61	なし	〃	〃		
	垂木材187-63	くの字欠込1	〃	〃	垂木の可能性あり	
	鍬柄材188-64	なし	〃	〃	方形段あり	
	桁材188-66	欠込1	〃	〃	一端尖る	
	垂木材188-67	なし				
	脚板188-70	なし	〃	〃	両端に軸あり	
	脚板190-72	なし	〃	〃	一端に軸あり	
下前田遺跡	建築部材数点あり					

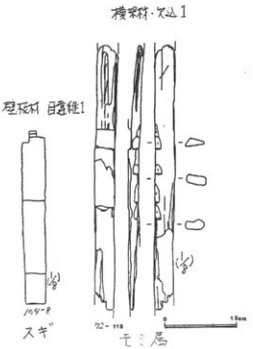
下稗田遺跡（行橋市）
弥生時代前期後半



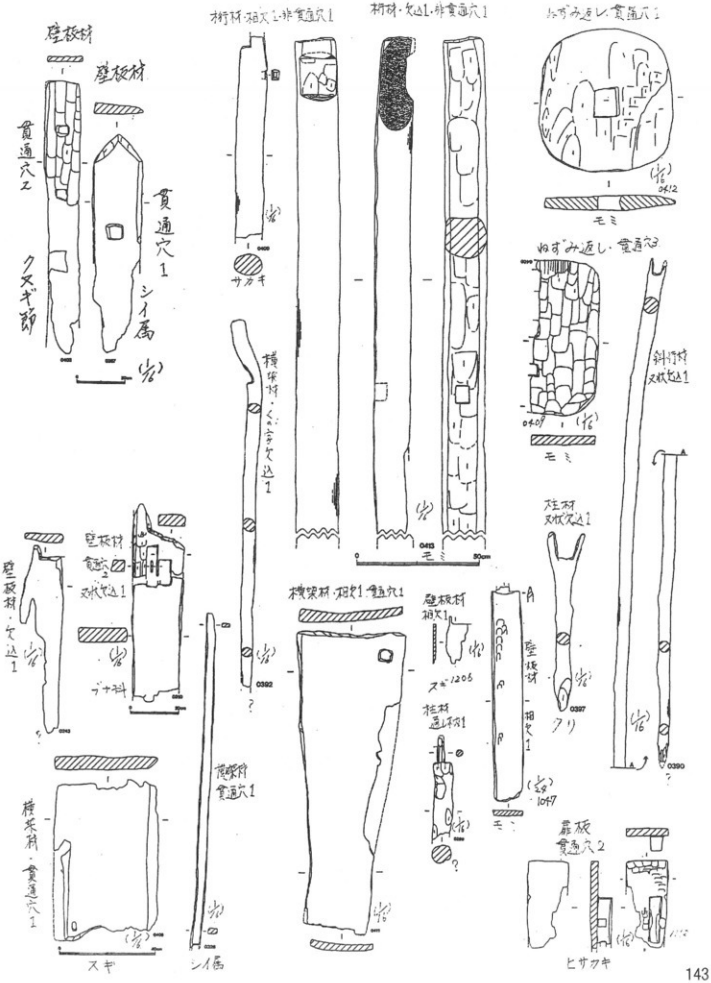
守恒遺跡（北九州市）
弥生時代中期後半



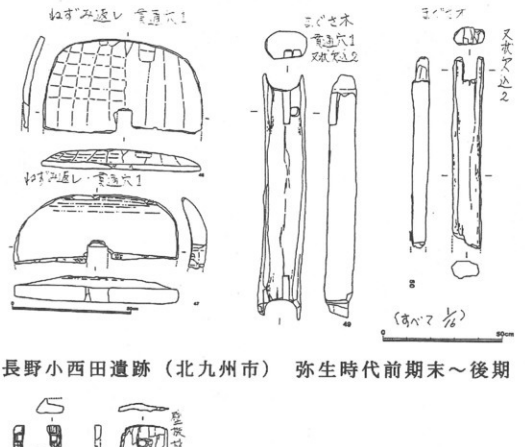
上清水遺跡（北九州市）
弥生時代終末～古墳時代初頭



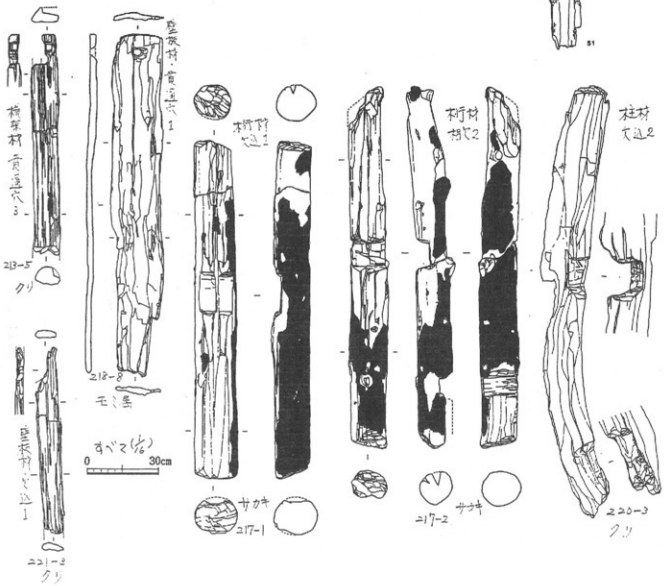
カキ遺跡（北九州市）　弥生時代後期後半・古墳時代後期



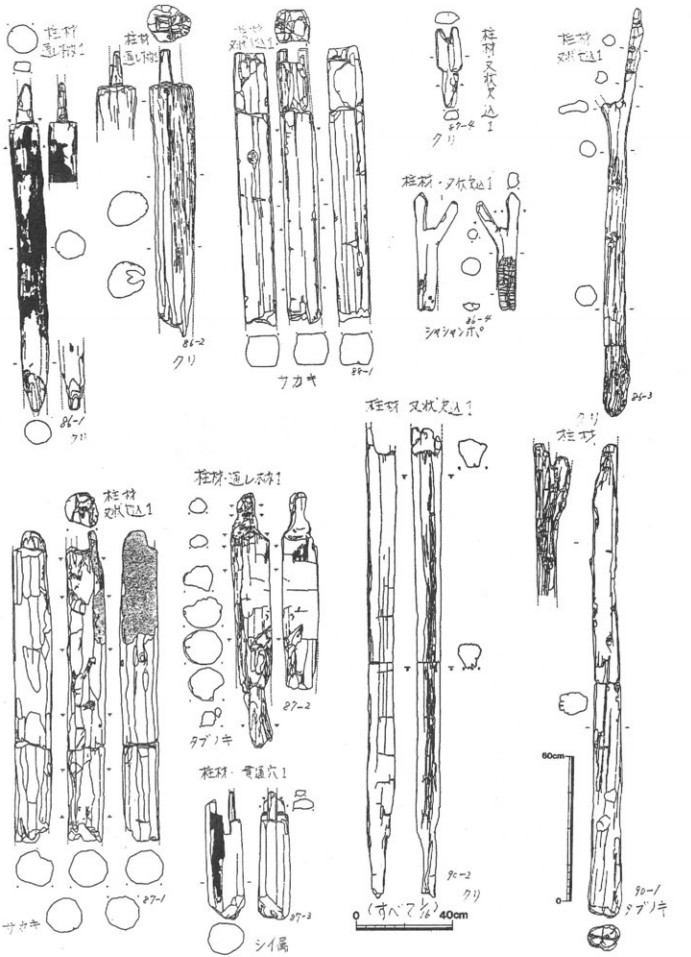
貫川遺跡（北九州市）　弥生時代終末～古墳時代前期



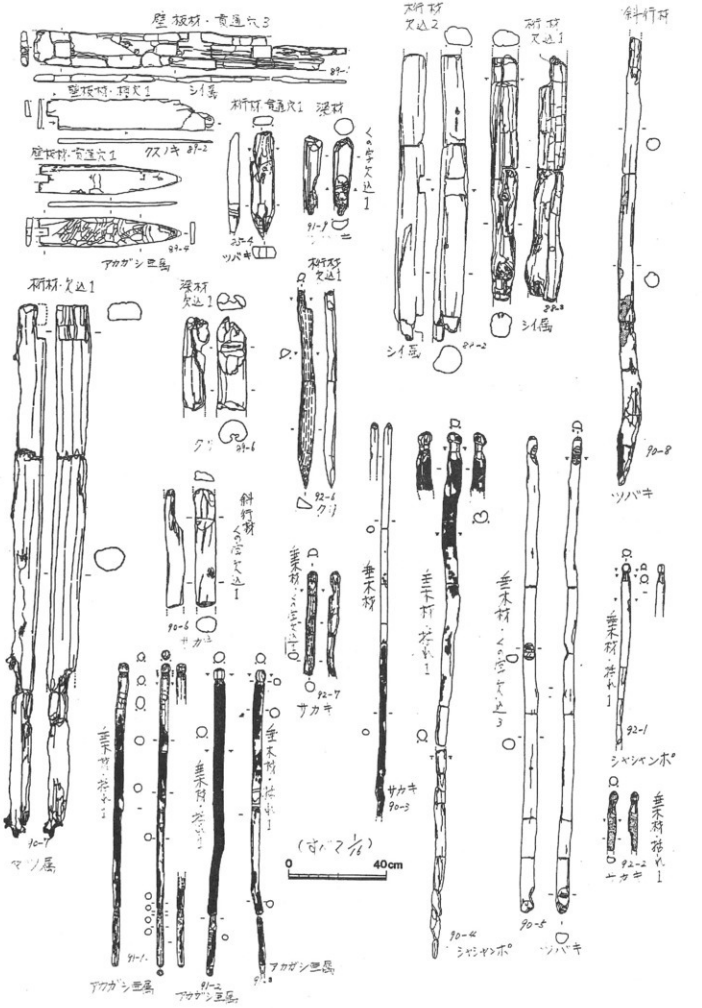
長野小西田遺跡（北九州市）　弥生時代前期末～後期



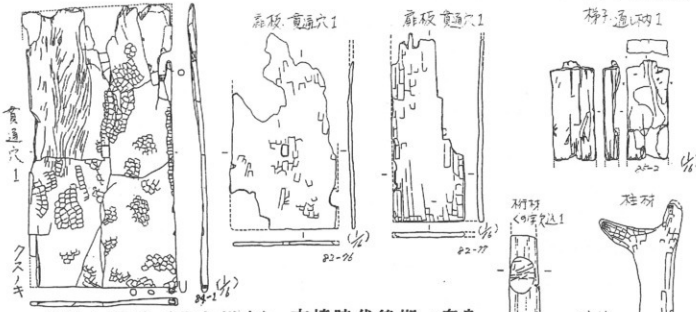
金山遺跡（北九州市）　弥生時代終末～古墳時代初期



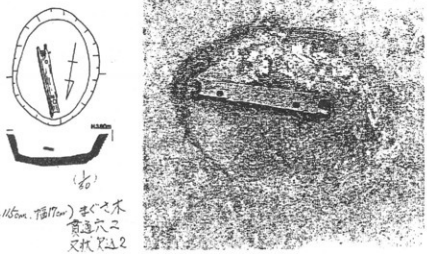
金山遺跡（北九州市） 弥生時代終末～古墳時代初期



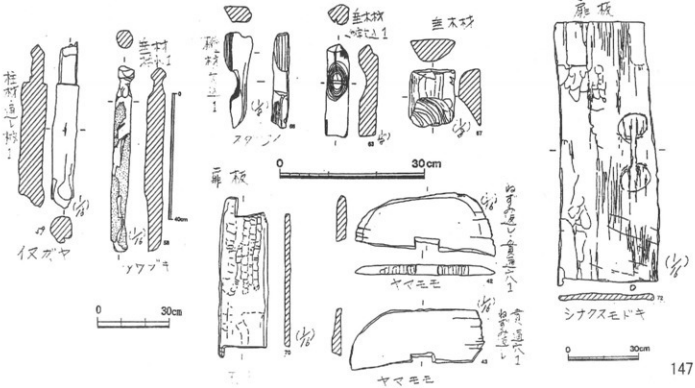
金山遺跡（北九州市） 弥生時代終末～古墳時代初期



長野A遺跡（北九州市） 古墳時代後期 ~奈良



宇留津川角遺跡（築上郡椎田町） 古墳時代中期



佐賀県の概要

山口譲治

佐賀県内では、縄文時代の木製品の出土例がなく、弥生時代に入ると水利遺構から木製品がみられるようになり、建築材も弥生時代前期から出土例がある。

弥生時代前期

唐津市菜畑遺跡では、谷部の前期初頭～中期初頭の各時期の包含層から工具・農具類・容器など各種の木製品に混ざって、少量の広葉樹の芯持ち丸木材を用いた又柱などの柱材、カシ・シイなどの広葉樹のミカン割材から板材に仕上げた壁材と考えられる板材が出土している。

弥生時代中期～後期

唐津市梅白遺跡では、前半の水稲耕作関連の水利施設や旧河道から、農具主体の木製品が出土し、杭に転用された柱材などの建築材が出土した。

佐賀平野西部の三日月町の土生遺跡では、初頭～前半の溝や方形木組の井戸から、牛津町の生立ヶ里遺跡や白石町の低湿地の遺跡などでも前半の工具・農具・容器など各種の木製品に混じって少量の建築材が出土している。建築材としては、広葉樹の芯持ち丸木を用いた又柱やホゾ組合せ用の凹受けを造り出した柱材、広葉樹の柾目取り材を用いた壁・床材として使用されたと考えられる板材がある。また、土生遺跡の井戸は、方形の角材、方形のホゾと方形のホゾ孔を穿った長方形の板材の構築材を組合せて、方形井戸を構築しており、当時の建築技術を考える上で参考となる。

佐賀平野中央部の黒井遺跡・利田尻遺跡・託田西分遺跡などでも、前半の水利施設から少量の建築材が出土している。黒井遺跡では、広葉樹の芯持ち丸木を用い、両端近くと中央の２間分の柱受け用の方形のホゾ孔を設け、その間に床受けと考えられる削り込みがあり、一見波状をなしている。

また、丘陵上や自然堤防上・沖積微高地の茂手遺跡・川寄吉原遺跡では、前半から竪穴住居跡とともに掘立柱建物が検出されており、柱穴からは広葉樹を用いた柱材や礎石・柱固定材が出土している。

後半に入ると吉野ヶ里遺跡、瓦町遺跡、川寄吉原遺跡等で、環濠・土坑・低湿地の水利施設から工具・農具・容器など各種の木製品とともに建築材が出土している。吉野ヶ里遺跡など拠点集落は環濠を持ち、環濠縁辺に水田が形成され、古墳時代初頭まで継続している。吉野ヶ里遺跡では、環濠から後期のものを主体とした建築材が出土している。柱材・扉返し・梯子がある。瓦町遺跡では土坑などから、中頃～後半の広葉樹を用いた角材・板材などが出土しており、大半は道具の未製品であるが、シイの板材などもあり建築材が含まれている。他に、中期前半～後期前半までの集落も多数みられる。

古墳時代

古墳時代前期・中期の建築材は、県内の各遺跡から出土しているが、ここでは、後期後半の出土例を紹介する。平尾二本杉遺跡では土坑から、農具などとともに扉・扉返し・梯子・柱材などの建築材が出土した。５～７の扉はスギの板目取り材を用いており、８～10の板材もスギを用いている。他の建築材は広葉樹を用いたものが多い。

※佐賀県内では、一遺跡ごとにみていくと、各時代・時期のいずれの遺跡でも建築材の出土量が少なく、一定量の出土量がある遺跡は未報告のケースが多いためと私の怠慢から、１ヶ所のみの掲載となったが、弥生時代前期から古墳時代までの各時期とも、県内集成の形をとると、まとまった資料となりえるものである。次ぎの機会に必ず補いたいと思う。

1．板接ぎ・仕口・継ぎ一覧

時代・時期		貫　穴	仕口（ホゾ）	欠き込み	板接ぎ	備　考
弥生時代前期		△	○	○	○片側ナナメ	
弥生時代	前　半	◎方形	◎方形	◎L・方形	○片側ナナメ	
中期	後　半	◎方形	◎方形	◎L・方形	◎	
弥生時代後期		◎方形	◎方形	◎L・方形	◎	
古墳時代後期		◎方形	◎方形	◎L・方形	◎	

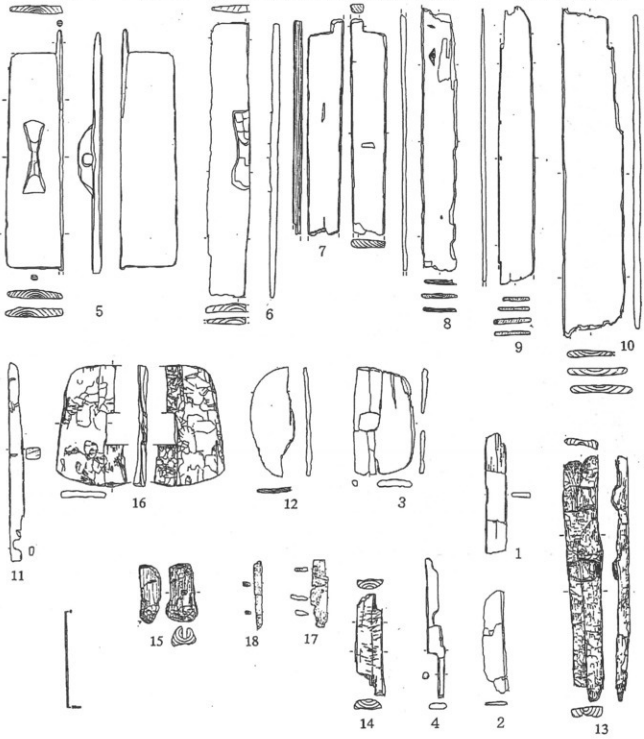
2．柱材等一覧

時代・時期		又受け直柱	凹受け直柱	横架材	壁・床材	備　考
縄文時代		△	？	？	？	
弥生時代前期		◎	◎	△	○	
弥生時代中期		◎	◎	◎	◎	
弥生時代	前　半	◎	◎	◎	◎	
後期	後　半	○	◎	◎	◎	
古墳時代前期		○	◎	◎	◎	
古墳時代中期		？	◎	◎	◎	又柱あり？
古墳時代後期		？	◎	◎	◎	又柱あり？

3．特定部位材一覧表

時代・時期		扉関連材	梯子	鼠返し	栓	備　考
縄文時代		×	？	×	×	
弥生時代前期		？	△	×	？	扉・梯子あり？
弥生時代	前　半	？	○	？	△	
中期	後　半	○	◎	△	○	
弥生時代後期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代前期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代中期		◎	◎	◎	◎	
古墳時代後期		◎	◎	◎	◎	

遺跡名：平尾二本杉遺跡　所在地：佐賀県佐賀市高木瀬町　古墳時代後期



SK1178 出土（1 ～ 11）　SE4010 出土（13 ～ 15）・SK3008 出土（16）
SK1202 出土（古墳前期：12）　SK2004 出土（17・18）
木島慎治・前田達男編 2002『平尾二本杉遺跡Ⅰ』
西田巌 2002『平尾二本杉遺跡Ⅱ』

長崎県の概要

山口譲治

長崎県内では、縄文時代晩期の木製品の出土例はあるものの、建築材は弥生時代前期～古墳時代前期の出土例があるのみである。

弥生時代前期

長崎県北部の盆地に位置する里田原遺跡や壱岐島の原の辻遺跡で、前期後半～中期初頭の農具を主体とした木製品が出土しており、少量の建築材が出土している。建築材は、前者では水稲耕作に伴う畦畔や井堰から、後者では旧河道から出土している。

里田原遺跡では柱材などの建築材が出土している。7は広葉樹の芯持ち丸木を用いた又柱で、8は広葉樹の割材を用い、片方端部にホゾ組合せ用の組合せ部を削り出し、その下に瘤状の造り出し部を削り出して、装飾性を高めている。柱材か。1～6は、棒状をなし、9～12はカシ・シイの柾目取り材を用いた板材。板材は、ミカン割材の芯側をナナメのまま少し残して、外に向かって厚さを揃えている。板つなぎのためと考えられ、壁・床板として使用したか。

弥生時代中期

原の辻遺跡では、後半の旧河道から大引などの横架材・梯子など広葉樹を用いた建築材が出土した。1は芯持ち材を用い、片方端部にホゾ組合せのための組合せ部を造りだし、他端近くにL字状の欠き込みがみられる。2は半裁材を用い両端にホゾを造り出した大引で、ホゾの端部近くに方形ホゾ組合せのためのホゾ孔を持ち、平坦部の中央に柱受けを削り出し、さらに中心間30～35cmの桟穴が設けられている。

弥生時代後期

原の辻遺跡では、中期後半～後期後半の環濠や旧河道から柱材・横架材・垂木？・梯子・鼠返しなどの広葉樹を用いた建築材が出土した。1～7は芯持ち丸木を用い、片方端部近くにL字状をなす欠き込みがあり、垂木？などの屋根材か。10は芯持ち材を用いた柱材で、片方端部にホゾを造り出している。15は芯持ち丸木を用いた柱材で、枝分かれ部を利用して横架材受け部を造りだし、その上に方形ホゾ孔を穿ち、端部にホゾ組合せのための組合せ部を造り出している。12～14は芯持ち丸木を用いた柱材。11は芯持ち丸木を用いた横架材で、端部にホゾを造り出し、ホゾの中ほどに組合せのための方形ホゾ孔を穿っている。

原の辻遺跡では、終末期～古墳時代前期にかけての旧河道や溝から柱材などの建築材が出土している。佐世保市の門前遺跡では、終末期～古墳時代初頭にかけての旧河道から農具・容器などとともに数点の建築材が出土している。

1．板接ぎ・仕口・継ぎ一覧

時代・時期	貫　穴	仕口(ホゾ)	欠き込み	板接ぎ	備　考
弥生時代前期	△	○	○	○片側ナナメ	
弥生時代中期	◎方形	◎方形	◎L・方形	◎片側ナナメ	
弥生時代後期	◎方形	◎方形	◎L・方形	◎	

2．柱材等一覧

時代・時期	又受け直柱	凹受け直柱	横架材	壁・床材	備　考
縄文時代晩期	△	?	?	?	
弥生時代前期	◎	◎	△	○	
弥生時代中期	◎	◎	◎	◎	
弥生時代後期	○	◎	◎	◎	
古墳時代前期	○	◎	◎	◎	

3．特定部位材一覧表

時代・時期	扉関連材	梯子	鼠返し	栓	備　考
縄文時代晩期	×	?	×	×	
弥生時代前期	?	△	×	?	
弥生時代中期	◎	◎	?	△	
弥生時代後期	◎	◎	◎	◎	
古墳時代前期	◎	◎	◎	◎	

1．板接ぎ・仕口・継ぎ一覧

時代・時期	貫　穴	仕口(ホゾ)	欠き込み	板接ぎ	備　考
弥生時代前期	△	○	○	○片側ナナメ	
弥生時代中期	◎方形	◎方形	◎L・方形	◎片側ナナメ	
弥生時代後期	◎方形	◎方形	◎L・方形	◎	

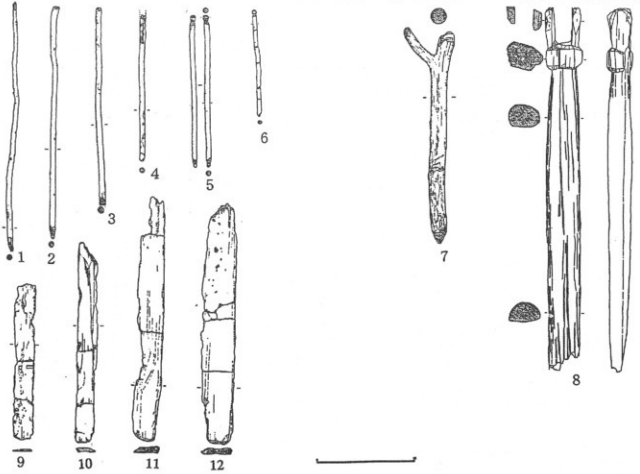
2．柱材等一覧

時代・時期	又受け直柱	凹受け直柱	横架材	壁・床材	備　考
縄文時代晩期	△	?	?	?	
弥生時代前期	◎	◎	△	○	
弥生時代中期	◎	◎	◎	◎	
弥生時代後期	○	◎	◎	◎	
古墳時代前期	○	◎	◎	◎	

3．特定部位材一覧表

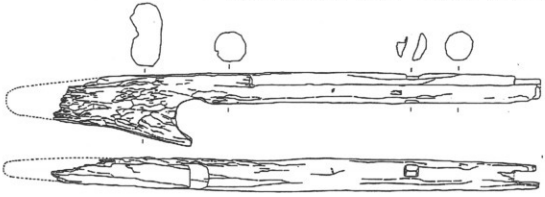
時代・時期	扉関連材	梯子	鼠返し	栓	備　考
縄文時代晩期	×	?	×	×	
弥生時代前期	?	△	×	?	
弥生時代中期	◎	◎	?	△	
弥生時代後期	◎	◎	◎	◎	
古墳時代前期	◎	◎	◎	◎	

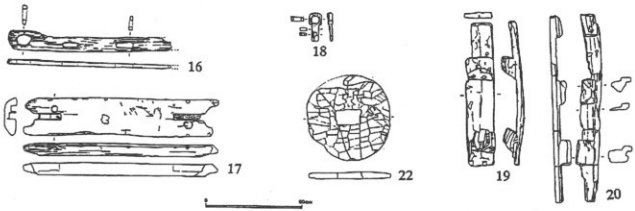
遺跡名：里田原遺跡　所在地：長崎県北松浦郡田平町里免　弥生時代前期



正林護 1992「Ⅳ. 遺物　木製品」『里田原遺跡ー町道里田原西線改良工事に伴う調査ー』

遺跡名：原の辻遺跡　所在地：長崎県壱岐市芦辺町・石田町　弥生時代後期 No.2

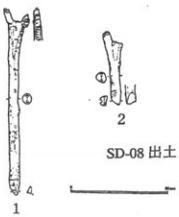




12号溝出土(中～後期:19タブノキ)　10年2号濠出土(後期:20)
11年1号旧河道出土(中～後期:18・22)
11年3号旧河道出土(中～後期:15～17・21)

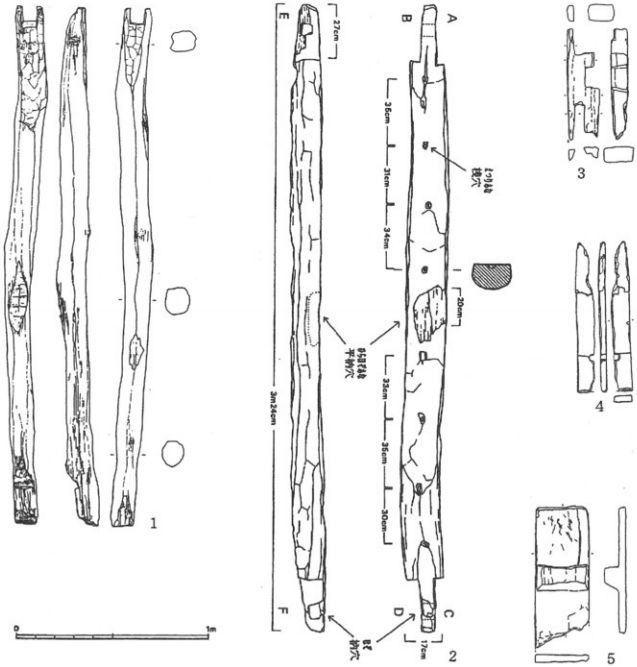
山下英明編 1995『原の辻遺跡―幡鉾川流域総合整備計画（圃場整備事業）に伴う緊急発掘調査報告書Ⅰ―』
杉原敦史・藤村誠編 2001『原の辻遺跡―原の辻遺跡特定調査事業発掘調査報告書Ⅲ―』
小石龍信・松崎卓郎編 2002『原の辻遺跡―長崎県緊急雇用対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』

遺跡名：原の辻遺跡　所在地：長崎県壱岐市芦辺町・石田町　古墳時代前期



小石龍信・松崎卓郎編 2002『原の辻遺跡―長崎県緊急雇用対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』

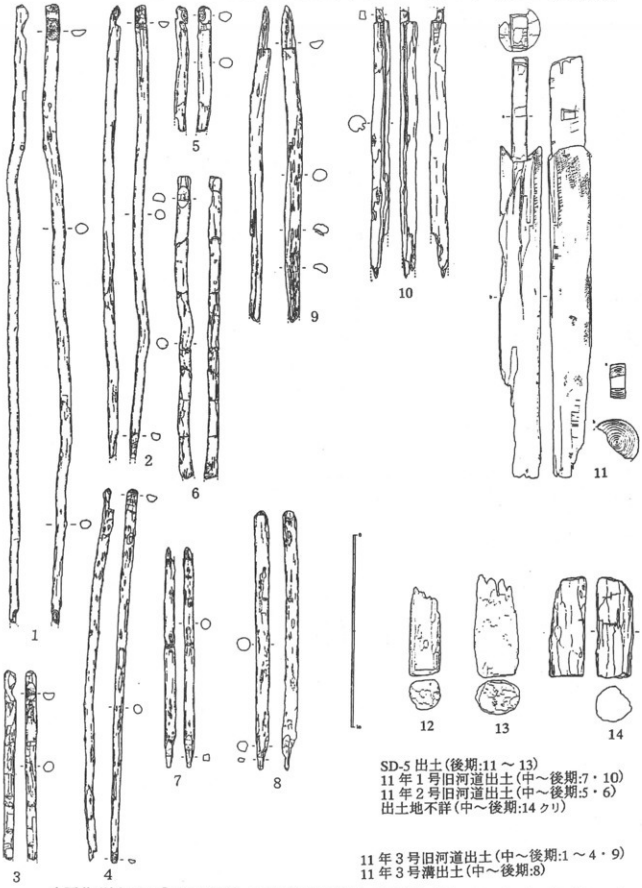
遺跡名：原の辻遺跡　所在地：長崎県壱岐市芦辺町・石田町　弥生時代中期



1包含層　2旧河道　3 4号旧河道　4 3号旧河道

藤村誠・中尾篤志編 2003『原の辻遺跡―原の辻遺跡調査研究事業調査報告書一』
杉原敦史編 1998『原の辻遺跡―幡鉾川流域総合整備計画（圃場整備事業）に伴う緊急発掘調査報告書一』
宮崎貴夫編 1998『原の辻遺跡―幡鉾川流域総合整備計画に係る幡鉾川河川改修に伴う緊急発掘調査報告書一』

遺跡名：原の辻遺跡 所在地：長崎県壱岐市芦辺町・石田町 弥生時代後期 No.1



SD-5 出土（後期:11 ～ 13）
11 年 1 号旧河道出土（中～後期:7・10）
11 年 2 号旧河道出土（中～後期:5・6）
出土地不詳（中～後期:14 クリ）

11 年 3 号旧河道出土（中～後期:1 ～ 4・9）
11 年 3 号溝出土（中～後期:8）

山下英明編 1995『原の辻遺跡―幡鉾川流域総合整備計画（圃場整備事業）に伴う緊急発掘調査報告書Ⅰ―』
杉原敦史・藤村誠編 2001『原の辻遺跡―原の辻遺跡特定調査事業発掘調査報告書Ⅲ―』
小石龍信・松崎卓郎編 2002『原の辻遺跡―長崎県緊急雇用対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』

大分県の概要

佐藤浩司

県下では木製品を出土した遺跡自体が少なく、建築部材の出土例として可能性のあるものは大分県横尾遺跡（縄文早期）がある。また中津市樋多田遺跡（弥生中期）では農具とともに少量の壁板材が出土している。最もまとまった種類の建築部材が出土した国東町安国寺遺跡（弥生時代後期）では、それらをもとに家屋復原もなされている。

1．横尾遺跡（大分市）

B．C4300年ごろ降下したとされるアカホヤ火山灰下層から発見された水場の遺構は谷に直交する形で、加工木をコの字状に配置している。主要な部材は角材風のものと丸木材で、いずれも杭で固定されていたと判断されている。

角材風の部材は長さ3.4m、一辺18cmをはかり、材の東側に角材風の加工が施されていている。また、西側では直径３～５cmの円形の貫通穴が現状で６カ所確認できる。これらには段彫りが施されているものもあるが、人為的に彫り込むには困難な方所にも円形の穴が存在することから、すべても穴が人工的なものではないようである。丸木材は長さ3.2m、最大幅約30cmで下半部には二次的な負荷による平坦面が認められ、股木部分に材と直交する形で人為的な切り込みが確認できる。樹種は報告されていない。この遺構は泥炭層からみつかっており、この層で出土した条痕文土器２点から縄文早期末～前期初頭に比定される。

＊塩地潤一郎『大分市市内遺跡確認調査概報―2001年度―』大分市教育委員会　2002

2．樋多田遺跡（中津市）

犬丸川の蛇行によって形成された自然堤防上に存在する。D区で杭列を伴う２本の流路が検出され各種の農耕具や加工材が出土した。

建築部材としては板材が３点みられるが、大半が杭として転用されており、プラント・オパールでは稲の細胞が大量に確認されたため周辺に水田の存在が確実である。板材には方形の貫通孔をもつものと、材の半分の厚みを削って減じたものがある。流路出土のため時期の特定はむずかしいが、出土土器や周辺集落との関連から弥生中期初頭～後期後半の幅で考えておく必要がある。

＊江田豊他『一般国道10号線　中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書（３）樋多田遺跡　森山遺跡　寺沼遺跡』大分県教育委員会　1992

3．安国寺遺跡（国東町）

学史上あまりにも著名な遺跡であり、昭和25年の第１次調査以来、過去に六次の調査が行われた。田深川が東流して形成された扇状地の端にあり、大規模な自然流路の泥炭層内から土器、石器とともに多量の木製品、建築部材が出土している。時期は弥生後期後半～終末期で出土した土器は安国寺式土器として東九州の標識土器にもなっている。今回は、昭和60年、61年調査分について報告する。

建築部材は１トレンチの泥炭層から折り重なった状態で出土し、計100点がみられ、いずれも転用されていないものである。板材が最も多く、そのうち壁板材と思われるものに方形の貫通穴が１カ所みられる。また、床材とされるものには欠込みや通しほぞ、斜め加工、非貫通穴などが施され、多種の仕口が駆使されている。一方柱材では幹が又状に分かれた部分を利用して削りを加えた又状欠込、Ｌ字欠込、貫通穴がみられる。一方桁材には端部斜め加工を施すものもあるが、欠込仕口が一般的である。垂木材も複数出土しており、一端を尖らせるものが確認できるが、欠損のため仕口の詳細は不明である。その他角材、三角材、斜行材、丸太材、梯子など、建物の構造材に必要な部材はほぼそろっている。

樹種としては、カシ、シイ、モミ、ケヤキ、サカキ、ヒノキ、カキ、クリ、アワブキ、クスなど多種にわたっており、大型材にも堅果類が利用されていることから、計画的な森林量がなされたものと思われる。

＊金田信子他『安国寺遺跡』大分県国東町文化財調査報告書第４集　国東町教育委員会　1989

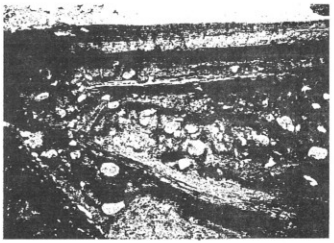
資料作成協力者　塩地潤一

大分県（豊前南部、豊後）

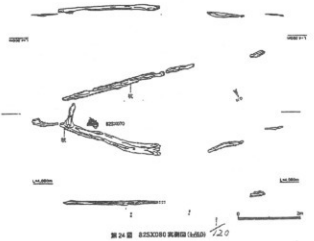
遺跡名	種類 と 押図No	細手・仕口	出土地点・検出遺構	時期	備考	特徴
横尾遺跡	角材？	貫通穴6？	水場遺構	縄文早期末～前期初頭	丸木材も出土	
諸多田遺跡	壁板材64-14	貫通穴1	湧路	弥生中期初頭～後期後半		
	壁板材64-15	なし	〃	〃	厚さを変える	
	壁板材64-16	貫通穴1	〃	〃		
安国寺遺跡	板材111	端部 裾欠1	湧路	弥生後期後半～終末	ミカン割り材	
	板材112	なし	〃	〃	ミカン割り材	
	壁板材113	貫通穴1	〃	〃		
	板材114	なし	〃	〃		
	板材115	なし	〃	〃	116と同一個体	板状か
	板材116	なし	〃	〃	115と同一個体	〃
	板材117	貫通穴1（円形）	〃	〃		
	床材118	欠込1	〃	〃		
	板材119	なし	〃	〃	120と同一個体	断面五角形
	板材120	なし	〃	〃	119と同一個体	〃
	板材121	なし	〃	〃	大形板	焼かれている
	板材122	なし	〃	〃		
	桁材123	両側欠込1・端部斜め加工	〃	〃		
	板材124	なし	〃	〃		
	板材125	なし	〃	〃		
	板材126	なし	〃	〃		
	板材127	なし	〃	〃		
	床材128	通しほぞ1	〃	〃		
	板材129	なし	〃	〃		
	板材130	欠込1	〃	〃		
	床材131	端部斜め加工	〃	〃		
	板材132	なし	〃	〃		
	板材133	なし	〃	〃		
	板材134	なし	〃	〃		
	板材135	なし	〃	〃		
	桁材136	なし	〃	〃		
	桁材137	欠込2	〃	〃	円弧状の欠込	
	斜行材138	なし	〃	〃	樹皮を残す	
	角材139	欠込1・非貫通穴？	〃	〃		
	角材140	なし	〃	〃		
	斜行材141	なし	〃	〃	樹皮を残す	
	角材142	欠込1	〃	〃		
	角材143	非貫通穴2	〃	〃		
	桁材144	端部斜め加工	〃	〃		
	角材145	なし	〃	〃		
	角材146	なし	〃	〃		
	柱材147	なし	〃	〃	多角形材	
	角材148	なし	〃	〃		
	角材149	なし	〃	〃		
	角材150	なし	〃	〃	断面三角形の棒材	
	面材151	なし	〃	〃		
	三角材152	なし	〃	〃		
	桁材153	なし	〃	〃		
	柱材154	L字欠込1・欠込1	〃	〃		
	柱材155	又状欠込1	〃	〃		
	柱材156	非貫通穴1	〃	〃		
	垂木材157	なし	〃	〃	一端尖る	
	格子168	なし	〃	〃		
	丸太材159	非貫通穴1	〃	〃		
	床材160	非貫通穴4	〃	〃		
	施設材161	L字欠込4	〃	〃		
	格子162	なし	〃	〃		
	丸太材163	なし	〃	〃		
	丸太材164	欠込1	〃	〃		
	桁材165	欠込2	〃	〃		
	丸太材166	なし	〃	〃		
	丸太材167	なし	〃	〃		
	丸太材168	なし	〃	〃		
	丸太材169	なし	〃	〃		
	丸太材170	なし	〃	〃		
	丸太材171	なし	〃	〃		
	桁材172	欠込1	〃	〃		
	桁材173	欠込1	〃	〃		
	桁材174	欠込1	〃	〃		
	垂木材？175	なし	〃	〃	数点あり	
	桁材176	欠込1	〃	〃		

時代	遺跡	貫通穴	非貫通穴	欠込	L字欠込	又状欠込	相欠	通しほぞ	斜め加工
縄文早期末～前期初頭	横尾遺跡	○?	×	×	×	×	×	×	×
弥生中期初頭～後期後半	樋多田遺跡	○	×	×	×	×	×	×	×
弥生後期後半～終末	安国寺遺跡	◎	○	◎	○	○	○	○	○

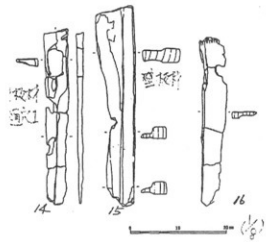
横尾遺跡（大分県大分市）　縄文時代早期末～前期初頭



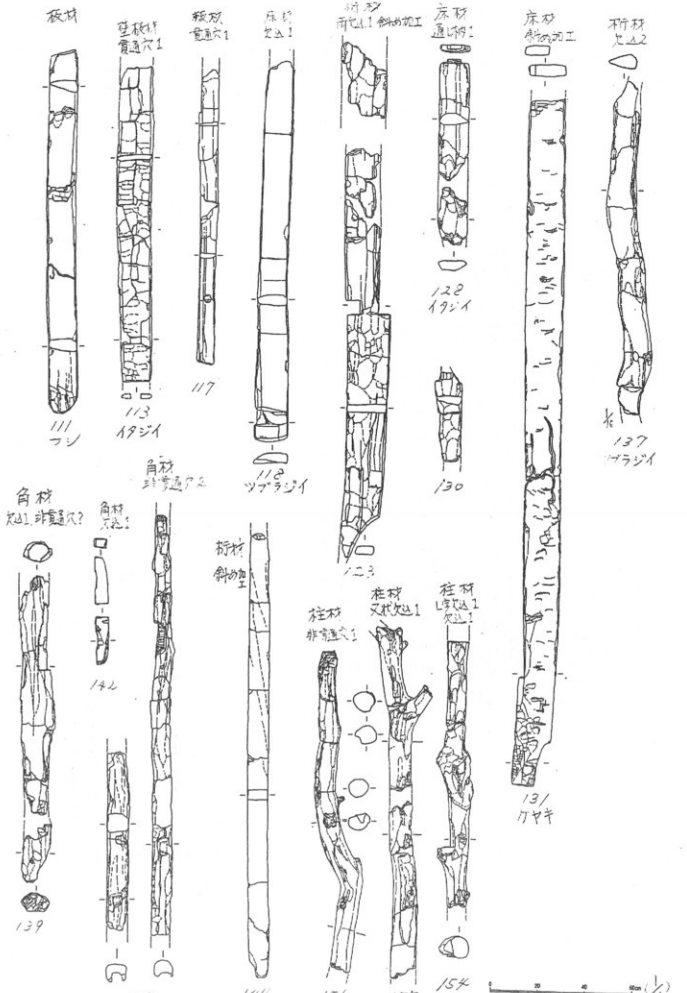
角材　貫通穴6
樹種？



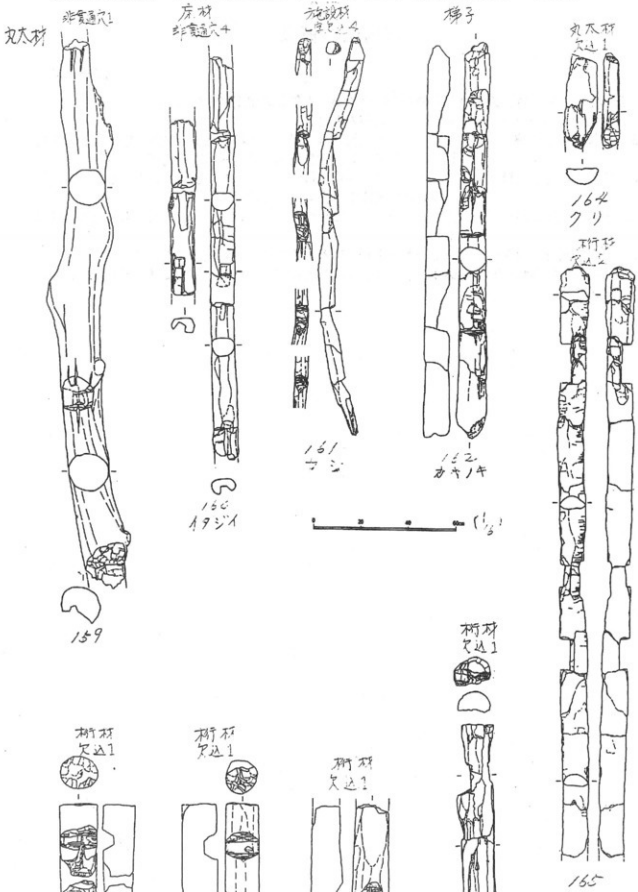
樋多田遺跡（大分県中津市）
弥生時代中期初頭～後期後半



安国寺遺跡（大分県国東町）　弥生時代後期後半～終末



安国寺遺跡（大分県国東町） 弥生時代後期後半～終末



宮崎県の概要

佐藤浩司

宮崎県については、低湿地調査例が少ないため、木製品の出土例も少ない。

1．湯無田遺跡……焼失家屋の構造材がみられる。

2．宮崎市垣下遺跡……扉材？が出土。他には狭鍬、一木鋤、鎌柄、広鍬、鍬柄などの農具類が出土している。弥生時代中期～古墳時代後期。

3．宮崎市町屋敷遺跡……扉板（クスノキ）、棟木？（アカガシ亜属）が出土している。弥生時代後期後半～古墳時代前期。

4．宮崎市前田遺跡……大足（アカガシ亜属）が出土している。古墳時代後期。建築部材は不明。

5．都城市坂元A遺跡……儀器が出土している。弥生時代中期後半。建築部材は不明。

＊山田昌久「九州地方の木・繊維製品」『考古資料大観第８巻 弥生・古墳時代 木・繊維製品』小学館 2003

出土建築材資料集

—縄文・弥生・古墳時代編—

第３分冊

山陰・山陽・四国・九州

発行年月日　平成17年３月31日
編集・発行　小矢部市教育委員会文化課
〒932-8611
富山県小矢部市本町１－１
TEL　0766-67-1760
印　刷　小矢部印刷